# Corporate Social Responsibility Report 2007

## アンリツCSR報告書2007





### 中長期的な達成像を描き、CSR意識をさらに浸透

アンリツは、創業以来110年を超える確かな技術を活かし、安全・安心で快適な 社会づくりに貢献することを、自らの社会的責任の核と考えています。

私は、昨年発行したCSR報告書において、「誠実で公明正大な事業活動を行い、 社会との調和を大切にしながら、CSRに関する課題解決に意欲的に取り組みたい」 とご挨拶いたしました。今もこの信念に変わりはなく、グローバル・コンパクトおよび アンリッグループ企業行動憲章の精神に則り、アンリッが皆さまから成長と発展を 望まれる企業であり続けるよう全力を尽くします。

私たちは今回、活動の中長期的な達成像を見出すために、『アンリッCSR活動のあるべき姿』を描きました。事業を通した社会貢献、グローバル経済社会との調和、地球環境保護およびコミュニケーションの推進において、私たちの目指す姿をステークホルダーの皆さまと共有し、責任を持って取り組みます。策定作業に参画した従業員を中心に、CSR意識をグループ全体にいっそう浸透させ、グローバルな活動の目標管理(PDCA)を進めていきます。こうした取り組みの積み重ねによって、これからも持続可能な社会づくりへの貢献に邁進いたします。



### 経営ビジョン

グローバルな ネットワーク社会の発展に 貢献し、キラリと光る 存在になる

マーケット・ドリブンと カスタマー・フォーカスを実現し グローバルなマーケット リーダーになる

### グローバル・コンパクト

グローバル企業として擁護すべき価値観

### 経営理念

アンリツは 誠と和と意欲をもって "オリジナル&ハイレベル"な 製品とサービスを提供し 豊かなユビキタス ネットワーク社会の実現に 貢献する

## アンリツグループ企業行動憲章

企業として共有している価値観・行動指針

### 経営方針

- ◆株主へのハイリターン
- ◆顧客とのWin-Win
- ◆会社を誇りに思う社員
- ◆良き企業市民としての 社会貢献

### アンリッグループ行動規範

企業および個人として守るべき日常的な行動指針

### アンリッグループ企業行動憲章

2005年4月1日 制定

アンリッグループは、誠と和と意欲をもって、"オリジナル&ハイレベル"を核とした知の製造業によるソリューションの提供を通して企業価値を 向上し、社会全体から成長・発展を望まれる企業となることを目指します。株主・投資家、顧客、取引先、従業員、地域社会など、すべての関係者の 皆さまに対し誠意を尽くし、個々を尊重し、各々との和を大切にしつつ、企業の社会的責任を果たすため、意欲的に行動します。

社会的に有用な製品・サービスを、品質、安全、環境に十分配慮して開発、提供し、顧客の満足と信頼を獲得します。 誠実な企業活動: 公正、透明、自由な競争を行うとともに、政治、行政そして市民および団体と、健全かつ正常な関係を維持します。

企業情報の発信: 企業情報を公正かつ適時に開示し、企業活動の透明性を高めます。 情報資産の管理: 個人情報、顧客情報を含む情報資産の適正な管理を行います。

人権尊重: すべての人々の人権を尊重し、人種、性別等による差別的取り扱いや、個人の尊厳を損なう行為を行いません。

また、児童労働、強制労働を認めません。

従業員の尊重: 従業員一人ひとりの個性を尊重し、能力を十分に発揮でき、安全で生き生きと働ける環境を実現します。

社会との調和: 国際社会や地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。

地球環境保護: 地球環境への負荷を低減し、持続可能な社会づくりに貢献します。

社会貢献活動: 良き企業市民として積極的に社会貢献活動を行います。

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂節のうえ、実効ある社内体制の整備を行い、企業倫理の徹底を図ります。 万一、法令に違反するような事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ 的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にして、自らを含めて厳正な処分を行います。

グローバル・コンパクト (p33参照)

2006年3月 賛同

### 目次

1	トップメッセージ				
2	経営理念・ビジョン・フ	方針、企業行動憲章			
3	目次・報告書作成にあ	うたって			
4	会社および事業概要				
5-6	ハイライト(事業編)	:安全・安心で快適な社会の構築			
7	ハイライト(社会編):グローバル経済社会との調和				
8	ハイライト(環境編):地球環境保護の推進				
9-10	アンリツグループのC	CSR			
11-12	2006年度目標達成	度、2007年度目標設定			
13-14	顧客満足	お客さまとの対話			
15	誠実な企業活動	企業倫理・コンプライアンス			
16	誠実な企業活動	内部統制、事業継続計画(BCP)			
17	企業情報の発信	株主・投資家、仕入先・協力会社との対話			
18	情報資産の管理	情報セキュリティ管理			
18	人権尊重	障害者雇用·両立支援			
19	従業員の尊重	人材育成、キャリア支援			
20	従業員の尊重	労働安全衛生			
21	地球環境保護	地球環境とともに			
22	地球環境保護	環境負荷マスバランス、環境会計			
23	地球環境保護	エコマネジメント: グローバルな取り組み			
24	地球環境保護	エコマインド:教育・啓発			
25	地球環境保護	エコプロダクツ:環境に配慮した製品開発			
26	地球環境保護	エコプロダクツ:エクセレント エコ製品			
27	地球環境保護	エコプロダクツ:グリーン調達、エコオフィス			
28	地球環境保護	エコファクトリー			
29-30-31	社会貢献活動	企業市民としての取り組み			
32	企業情報の発信	ステークホルダーの皆さまのご意見・ご感想			
33	グローバル・コンパク	トの原則と関連記事の対照表			
34	第三者評価、編集後記	2			
別紙	CSR報告書アンケ-				

### 報告書作成にあたって

2007年版アンリッCSR報告書は、当社の CSR活動に対するご意見を踏まえ、次の方針 に沿って編集いたしました。(ご意見・ご感想の 内容は32ページをご参照ください。)

- 1. アンリツのCSRの方向性を対外的に明確にするとともに、従業員へのアンリツグループ企業行動憲章の浸透を目指し、同企業行動憲章の条文を報告フレームとしています。
- 2. アンリツの活動内容のうち、社会および環境とアンリツの関わり上、特に重要であると考えられるトピックスを中心に報告しました。 (財務面の詳細については、当社ホームページ www.anritsu.co.jp/J/IR/ またはアニュアルレポートをご参照ください)
- 3. グローバルな活動の状況を報告すること に努めました。
- 4. 管理サイクル (PDCA)の計画立案 (P)・活動の実施 (D)だけでなく、活動の評価 (C)・計画の改善(A)についても報告するように努めました。
- 5. 報告書作成にあたり、GRIの「サステナビリ ティ リポーティング ガイドライン2006」を 参考にしました。
- 6. 地球環境保護については、詳細な情報を掲載したホームページ www.anritsu.co.jp/ J/Environment/を用意しています。
- 7. 対象期間: 2006年4月1日~2007年3月31日(一部 には、対象期間前後の活動内容も含まれ ます)
- 8. 主語の定義:

報告内容については、項目によりアンリツ (株)のみの場合と、アンリッグループ会社を 含めている場合があります。

以下のルールで区別しています。

"アンリツ"または

"アンリッグループ"……記事内容がアンリッ(株)およびグループ会社全体の場合 "アンリッ(株)"……記事内容がアンリッ (株)単体の場合

- "グループ会社" ……記事内容がグループ 会社またはその一部の場合
- 9. 難解な用語、専門的な用語についてはその 都度、解説しています。

発行日:2007年7月14日 問い合わせ先:アンリツ(株)CSR推進室 TEL:046-296-6514 FAX:046-225-8358 URL: http://www.anritsu.co.jp/ (次回は2008年7月に発行予定です)

### 会社および事業概要

アンリッグループは、オリジナル&ハイレベルな技術を活用したソリューションを通して、情報通信や精密計測、食品・医薬品、環境関連の分野で事業を展開し、安全・安心で快適な社会・環境の実現に取り組んでいます。

#### 事業概要

#### 計測器事業

ワイヤレス通信網やIPネットワーク、地上デジタル放送などさまざまな通信・放送ネットワークを構成する装置・デバイス・システムの測定・検査に対応した各種計測器に加え、通信・放送・インターネット技術の融合に伴い高度化、複雑化するネットワークやそれを通して提供されるサービスの品質保証ソリューションを開発。次世代ネットワーク(NGN)の構築に貢献しています。

#### 情報通信機器事業 -

官公庁や地方自治体向けの画像配信、河川情報、 テレメータなどの公共情報システムやインターネット サービスプロバイダ、通信事業者を顧客とする映像 配信ソリューション、IPスイッチなどを中心に事業を 展開しています。

#### 産業機械事業 -

最先端のメカトロニクス技術と厳しいHACCP 管理システムをベースにしたX線異物検出機や重 量選別機、自動電子計量機を軸に、食品や医薬品の 品質保証ソリューションを提供しています。

#### 精密計測事業 -

デジタル製品の小型電子部品の表面実装工程において、クリームはんだの体積を3次元で計測できる印刷はんだ検査機や、機械加工部品などの高さ、段差、幅、厚みなどの寸法測定や形状測定を可能とする光マイクロ機器を提供しています。

#### 環境関連事業 ———

環境関連の事業では、離れた場所からレーザー光を 照射するだけで、CO2の20倍以上の温室効果がある メタンの湧出点や漏洩箇所、濃度などを瞬時に検知・ 測定できるレーザガス検知器を提供しています。

#### 営業利益/対売上高比率





\*1.2007年3月31日現在 \*2.連結:2007年3月期 アンリツ(株)が対象

本社所在地:神奈川県厚木市恩名5-1-1

創業:1895年

資本金:140億49百万円\*1 売上高:994億45百万円\*2 株主数:16,407名\*1

徒業員数:3,990名\*3

仕入先·協力会社数:1,113社\*4

\*1.2007年3月31日現在 \*2.連結:2007年3月期 \*3.連結:2007年3月31日現在 \*4.2007年3月31日現在

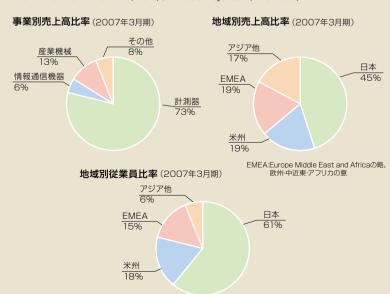


#### 国内グループ会社

アンリツ産機システム株式会社、東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カストマサービス株式会社、アンリツデバイス株式会社、アンリツネットワークス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、アンリツ興産株式会社、アンリツテクマック株式会社、株式会社アンリツプロアソシエ、アンリツ不動産株式会社

#### 海外グループ会社

Anritsu Company (U.S.A.), Anritsu Instruments Company (U.S.A.), Anritsu Electronics Ltd. (Canada), Anritsu Eletrônica Ltda. (Brazil), Anritsu Company S.A. de C.V. (Mexico), Anritsu Ltd. (U.K.), Anritsu EMEA Ltd. (U.K.), Anritsu S.A. (France), Anritsu Instruments S.A.S. (France), Anritsu GmbH (Germany), Anritsu S.p.A. (Italy), Anritsu Solutions S.p.A. (Italy), Anritsu AB (Sweden), Anritsu AB (Finland), Anritsu A/S (Denmark), Anritsu EMEA Ltd. - Oficina de Representacion en Espana (Spain), Anritsu EMEA Ltd. - Dubai Liaison Office (U.A.E.), Anritsu Company Ltd. (China), Anritsu Company, Inc. (Taiwan), Anritsu Corporation, Ltd. (Korea), Anritsu Pte. Ltd. (Singapore), Anritsu Pte. Ltd. India Branch Office (India), Anritsu Pty. Ltd. (Australia)





### 地上デジタル放送のグローバルな普及に貢献

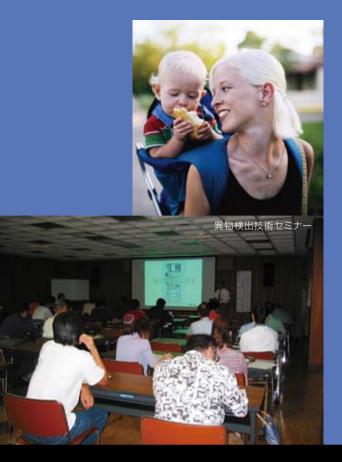
2011年には現在のアナログ放送が終了し、地上デジタル放送への完全移行が予定されています。そこで各放送事業者は、安定した地上デジタル放送を提供するために、親局や中継局の建設、さまざまな場所での受信状況調査などに取り組んでいます。

日本の地上デジタル放送はISDB-T方式により提供されていますが、アンリツは地上デジタル放送システムの研究開発段階から放送事業者と密接なパートナーシップを構築し、ISDB-T方式地上デジタル放送信号の高精度な解析を可能とするデジタル放送信号アナライザや屋外での受信障害調査に最適なハンドヘルドタイプのデジタル放送フィールドアナライザを開発しています。フィールドアナライザは、大型の測定器を持ち運ぶことが困難なビルの谷間や山間部にも簡単に携行できることから、多くのお客さまに高く評価されています。さらにこの測定器は、ヨーロッパなどで採用されているDVB-T/H方式にも対応しており、地上デジタル放送の円滑な普及をグローバルに支えています。

また、ワンセグ携帯電話に代表される地上デジタル放送受信端末携帯端末の開発に欠かせない信号発生器も提供しており、放送と通信が融合した移動通信システムの発展にも貢献しています。







### 安全・安心な食品づくりへの貢献

食品の「安全と安心」に関する消費者の関心はかつてないほど高まり、食品製造企業にとって、自社製品の安全性確保が最優先の課題となっています。

X線異物検出機などの食品用異物検査機器を提供しているアンリツ産機システムでは、国内外の食品製造企業を対象に異物混入事故防止技術に関するセミナーを開催し、業界全体の安全意識向上に努めています。

このセミナーは、食品製造現場における異物混入事故事例を紹介し、 異物混入事故の原因と防止策、食品安全管理技術を提供するものであり、 2006年度は延べ60社1.237名の方々にご参加いただきました。

アンリツ産機システムは、誰もが安全・安心な食品を享受できる社会の 実現に貢献するために、今後も高度な異物検査ソリューションを追求する とともに、セミナーなどの開催を通して食品安全技術の提供と意識啓発を 推進してまいります。

本業を通した社会貢献への取り組み

# 安全・安心で快適な社会の構築

ハイライト **(事業編)** 

### 科学技術発展への貢献

2007年2月から活動を開始した第48次南極地域観測では、アンリツの原子時計が活躍しています。アンリツと南極地域観測の歴史は古く、30年以上前から無線機や雪上車に搭載されるレーダやインマルサット、衛星通信装置などを提供。南極地域観測に協力しています。

原子時計は、1997年の第39次南極地域観測から開始されたVLBI\* 観測で使用されるようになり、地球環境に影響を及ぼす可能性のある南極プレートの運動やプレート内部の変形、天体や地球の測地観測で必要とされる国際基準座標系の構築に貢献しています。

また、原子時計は、GPSのさらなる高性能化や正確な天体地図の作成、巨大地震を引き起こすプレート運動の監視など、多方面で注目されています。

アンリツは、原子時計の技術開発に20年以上前から取り組んでおり、現在は日差100億分の一秒未満(1X10<sup>-15</sup>未満)という世界トップクラスの周波数安定度を実現しています。今後も原子時計のさらなる性能向上と小型化を追求し、時間や周波数の国家標準、測地、人工衛星の軌道決定、電波天文、通信などさまざまな分野の科学技術の発展に貢献していきます。

\*Very Long Baseline Interferometory:超長基線電波干渉:はるか数十億光年の彼方にある電波星(準星)から 放射される電波を、複数のアンテナで同時に受信し、その到達時刻の美を精密に計測する技術です。





国際社会や地域社会との調和を目指しているアンリツ。その一例が、2006年版報告書でご報告した東北大学東北アジア研究センターとの産学連携による"人道的対人地雷探知・除去技術開発推進事業"への参加です。ベクトルネットワークアナライザ(VNA)技術が応用されたハンドヘルド型の地雷探知システムALIS (Advanced Landmine Imaging System)のその後の進展をご紹介します。

パームサイズPCとVNAを組み合わせた最新のALISは、センサーの操作者自身が埋められている地雷を探索する際の操作性が向上しています。音だけが頼りだった金属探知器を補完し、除去効率が大幅に向上することを実証するため、2006年も各地におけるフィールド実験に参加しました。クロアチアで2月~3月に行われた実験では、地雷と地雷以外の金属物とを識別する手間が1/3以下になることを実証。さらに11月~12月にはカンボジア地雷対策センター(CMAC)での評価試験に参加し、その性能と使い勝手の良さが認められ、高い評価を受けました。



「カンボジアでは現地の作業者にALISの使い方を約2週間指導し、実際の試験は彼らが自ら行いました。操作に慣れた後では、『除去効率が上がるのでぜひ使いたい』と好評でした。また、約2か月にわたってシステムの耐久力も試されたわけですが、高温多湿な気候でもVNAは安定して動作しました。今後は、再度クロアチアで試験を行い、2007年度内の実用化を目指す予定です」

東北大学 教授 工学博士 佐藤 源之 先生

「私たちの技術がスモーラー、スピーディー、シンプルという機能面の向上に貢献できたことはもちろん、佐藤教授とのパートナーシップにより、アンリツの製品が国際社会の問題解決に寄与できることがなによりも嬉しいことです」





「納入した機器がきちんと性能を発揮し、 ALISの高信頼性に貢献できてホッとしています」

アンリツ株式会社 営業統轄本部 第2営業本部 営業推進第2部 課長補佐 **大石 光雄** 

人道的対人地雷の除去に向けて

# グローバル経済社会との調和

ハイライト(社会編)



アンリツ・カンパニー 社長 Frank Tiernan

### 社会生活の質の向上に貢献するために

アメリカにおける主力事業は、永年リーダーシップを発揮して培ってきたマイクロ波測定技術を応用したRFおよびマイクロ波測定器の開発・提供です。主に情報通信分野で利用されていますが、近年、その用途が多方面に広がりつつあります。今回ご紹介している対人地雷除去への応用もその一つです。さらにマイクロ波は、X線よりも照射エネルギーが低いため人体に安全で、しかも生体細胞組織にまで浸透することから、診断や医療現場への貢献も期待されています。この技術を小型化し、ローコストも実現した最新のVNAマスターは、肺虚脱や内出血の確認用として、緊急医療の診断技術研究者の間で大きな反響を呼びました。こうした事例はRFおよびマイクロ波技術から広がる多くの可能性の一部に過ぎません。

私たちは、これからもアンリツの技術と製品をさまざまな分野に応用して、より安全・安心で快適な社会の構築と生活の質の向上に貢献することをお約束します。

蛍光X線分析装置による分析

グローバルに事業を展開するアンリツでは、環境負荷の削減にもグローバルな 視野で取り組んでいます。

その一例が、環境マネジメントシステムの整備。2006年度には、アンリッ・カンパニー (アメリカ)がISO14001認証を取得し、日本国外ではアンリッ・リミテッド (イギリス)に続き2番目の取得となりました。

また、有害物質フリーに向けた取り組みも、国内外の製造拠点が一丸となって 推進しています。

### 有害物質フリーへのグローバルな取り組み

2006年7月、欧州で電気・電子製品に含まれる有害物質の使用規制が発効しました。アンリツの主力製品である計測器は、現在この規制の対象外となっていますが、有害な物質を製品に使用しないことを企業の社会的責任と捉え、有害物質フリーに取り組んでいます。

アンリツには、日本以外にアメリカ、イギリス、デンマークなどに開発拠点があります。そのすべての拠点で対応する必要があることから、グローバル会議を年2回開催し、有害物質フリーに向けた対応を検討しています。



鉛、水銀などの有無を確認

日本においては、部品に含まれる化学物質情報のデータベースを更新するとともに、有害物質を分析する蛍光X線分析装置を導入し、購入部品の確認作業を開始しました。また、含有有害物質フリーの信頼性を確保するために各部門で実施すべき事項を定めた環境品質管理体制を構築中です。今後は、このシステムを世界各国の拠点にも展開し、有害物質対応をさらに強化していきます。



RoHS対応品例:光デバイス

グローバルな視野で環境負荷を低減

# 地球環境保護の推進

ハイライト(環境編)

### 一致団結した取り組みで、ISO14001認証を取得

アンリツ・カンパニー Cynthia Mann

アンリツ・カンパニーでは、2006年度の1年間、ISO14001の認証に向けて取り組んできました。準備段階では、まず環境教育と訓練を実施しました。そこで感じたことは、アンリツ・カンパニーの従業員一人ひとりが、環境負荷低減の取り組みに対して強い関心を持っていることでした。教育後には、各自の業務のどこで資源や廃棄物を削減できるか見直し、提案が次々と出されました。この提案は、環境面だけではなく、コスト削減や業務改善の面でも効果のあるものでした。

実際の取り組みにあたっては、紙の削減、紙のリサイクル、エネルギーの削減を目標に掲げ、すべて達成することができました。特に紙のリサイクルでは、「リサイクル 量の10%以上の増加」という目標に対し、69%増という成果が得られました。

こうした取り組みを積み重ね、7日間に及ぶ審査の末、無事、認証を取得できました。アンリツ・カンパニーが一致団結して活動し、環境改善に貢献できたことをうれしく思っています。





アンリツ・カンパニーの ISO14001認証取得 取り組みチーム (写真前列左から Jerry Fisher、 Alex Thomas、Tim Fast、 Rudy Gonzales 後列左から Betty Evans、Lydia FNU、 Marianne Duran、 Connie lobst、 Cyndi Mann)

### アンリッグループのCSR

アンリッグループは、本業によるCSRを重視し、ステークホルダーの立場を尊重することを基本姿勢としています。また、「アンリッらしい」 CSR活動をさらに追究し、中長期的な達成像を策定するため、『アンリッ CSR活動のあるべき姿』を描き、今後の活動の方向性を明確化しました。

#### アンリッグループのCSR

アンリツグループは、『誠と和と意欲』を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、本業によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。

	=		SRによる fi値、社会f		値		75-7*N <sup>3</sup>	1
投株 資主 家	お客さま	協力会 社	従業員	国地 際域・ 社会	生環 態系・	X X X		ミューケー
適正な情報開示ハイリターン	W·i-r-Wi-n 誠実な対応	取引	プロフェッショナル 自律的	良き企業市民地域社会への貢献	エコ商品の開発環境負荷の削減		社会 實施 實任 社会 前	_
会社法法	P 独禁法	下請法	労 基 法	貿税 管法 令	環境法	× × 法	法等の遵守。規範の遵守	

#### 『アンリツCSR活動のあるべき姿』の取りまとめ

以下の目的とプロセスにより、次のページに掲載した達成像として取りまとめました。

#### (1)目的

この取り組みには、①アンリッグループ企業行動憲章に示されるCSR活動の方向性をより明確化・具体化し、②アンリッグローバルLP 2008(中期経営計画)との整合性を図り、③「アンリッはCSR活動を中長期的に考えているか」というステークホルダーの問いに答える、という3つの目的がありました。

#### (2)プロセス

取り組みは、CSR推進メンバー (アンリツグループ全体の各CSR領域を主幹する部門で構成:アンリツ(株)19部門、グループ会社7部門)を中心に進められました。まず各部門が現状を分析。さらに、顧客、株主、従業員、地域社会、環境をはじめ、多面的なステークホルダーに対するCSR活動のあるべき姿を、各部門ごとに明確化し、現状とのギャップを埋める方策案を作成しました。これを受けて事務局が4つの達成像を起案。各達成像の時間軸を2008年度までとしてアンリツグループの事業計画と整合させました。さらに、社長を交えて、グループディスカッションを実施し、素案をさらにブラッシュアップ。『アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)』として策定しました。



### アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)

アンリツでは、オリジナル&ハイレベルな 技術によって、皆さまの安全と安心を守るため に働いている、との意識がグループ社員一人 ひとりに浸透している。お客さまの声を聴き、 その期待を上回る品質の製品・サービスと迅 速なサポートをグローバルに提供している。 「はかる」技術によって、特に非常時の通信 支援、通信障害の予防・保全という分野にお いて、次世代ネットワークを基盤とする社会 づくりに貢献している。

アンリツは、環境経営理念のもと、環境 マネジメントシステム (EMS)を、日本では開 発拠点に加えて新たに主要営業拠点にまで 拡大している。日本以外では主要開発拠点に 定着している。さらに、グローバルに統一し た製品アセスメント基準に基づいて、日本に おいては大部分の製品が環境配慮型製品と なっている。日本以外の主要開発拠点から 環境配慮型製品の生産が開始されている。

-- (童成像] 安全・安心で快適な 社会構築への貢献 【達成像2】 【達成像3】 グローバル経済社会 地球環境保護の との調和 推進 【達成像4】 コミュニケーションの推進

アンリツは、グローバルな事業活動におい て、コンプライアンスとリスク管理を効果的 に実施し、誠実な企業であるための基盤を 強化している。人権を守ることをその中核に 置き、異なる国籍・性別・文化などを持つ従 業員がより働きやすい職場環境をつくり、 特性・能力を活かせる人材育成を進めている。 また、仕入先・協力会社との密接な協力を通 し、企業を超えた供給体制においても社会的 責任を十分に果たしている。さらに、自社の強 みを活かし、企業市民として地域で信頼され る社会貢献活動を計画的に進めている。

アンリツは、事業活動全体を通して、積極的 かつ独自性のある情報開示およびステークホ ルダーとの対話・パートナーシップによる信頼 関係を構築し、CSR活動のPDCAサイクルに おいて、コミュニケーションの成果を効果的に 反映させている。

### 2006年度目標達成度、2007年度目標設定

2006年度に掲げた社会項目および環境項目に関する改善すべき課題を、アンリッグループ企業行動憲章の項目に 沿って抽出しました。これを目標(P)として実施(D)、確認(C)、および改善活動(A)という管理サイクルを回してCSR推進 活動を展開しました。

( )内は関連記事の該当	ページを示します。 !				
CSR項目	2006年度目標	2006年度実績			
<b>CS活動</b> 品質向上活動 (p13-14)	①CS行動規範に基づくプロセス別アクションガイドの作成 ②顧客満足度の向上…CSI目標 (商品面73点、営業面75点、納期面74点、保守面72点)の達成【参考:2007年度総合75点】	①CS行動規範に基づくCSガイドを発刊 ②顧客満足度指数(CSI) …商品面69点、営業面76点、納期面73点、 保守面67点)			
コンプライアンス (p15)	①公益通報者保護法への対応として内部通報規程を制定②コンプライアンス推進強化週間運動の継続的開催③倫理アンケートの継続的開催④ケーススタディ(事例)シートの継続的発行⑤コンプライアンス関連監査の継続的実施と監査内容·方法の見直し	①4月1日付けで「内部通報規程」を制定 ②10月に「企業倫理月間」を実施 ③10月~11月に実施(倫理アンケート) ④毎月2件のケースシート発行に加え、ポスター版ケースシートを掲示 ⑤10月~12月に公正取引推進状況監査、情報管理監査等を実施 (監査内容を充実化)			
<b>サプライチェーン</b> (p17)	①アンリツ(株)の調達基本方針に基づく仕入先・協力会社との連携の 推進	①取引先に対し、調達方針およびお願い事項を周知・理解していただく機会を創出し、サプライチェーンを通したCSR展開の必要性を相互に認識			
<b>情報セキュリティ</b> (p18)	①セキュリティ有効性評価指標の策定 ②グローバルセキュリティ施策の実施 ③内部監査員とセキュリティプロフェッショナル人材の育成	①重要な管理策20項目において評価指標を策定し測定を開始 ②中国を中心としたアジアの海外拠点の情報システムを再構築し セキュリティ強化を図った ③内部監査員:グループで10名増、セキュリティプロフェショナル人材 育成:2名			
<b>人権尊重</b> (p18)	①障害者雇用3か年計画の実行:2006年12月雇用率目標1.43%の 達成・・・アンリツ(株) ②次世代育成支援行動計画に基づく活動をアンリツ(株)において実施	①障害者雇用…1.53%:アンリツ(株)実績 注:中間目標値は達成 ②次世代育成支援…計画に基づき "ベビーシッター利用料補助制度 新設"をはじめとする支援拡充をアンリツ(株)にて実施			
従業員の尊重 (p19-20)	①2006年4月に施行された改正労働安全衛生法に基づき、アンリツ (株)の社内規程を見直し ②アンリツ(株)の年間活動計画の重点方策11項目の中に同改正内容を 取り入れて充実させ、安全・健康・快適職場の継続	①改正労働安全衛生法に基づき、安全衛生委員会の承認のもと、社内 規程を見直して管理体制の充実を図った。 ②年間活動計画の重点方策11項目にも同改正内容を取り入れ、計画 通り実施			
環境経営 <b>の推進</b> (p21-28)	①廃棄物の削減・リサイクル ・産業廃棄物の発生量を2000年度比80%削減 【参考:2008年度までに80%削減】 ②省資源・省エネルギー ・電気エネルギーの使用量を実質売上高原単位*1で1990年度比21%削減 【参考:2008年度までに31%削減】 ・エネルギー使用によるC02排出量*2を実質売上高原単位*1で1990年度比26%削減 【参考:2008年度までに35%削減】	①廃棄物の削減・リサイクル ・産業廃棄物の発生量:同左80.6%削減 注:金属くずの有価物化拡大、分別廃棄の徹底等により達成 ②省資源・省エネルギー ・電気使用量実質売上高原単位:同左36%削減 ・CO2排出量実質売上高原単位:同左39%削減 注:電気使用量および電気を含めたエネルギー使用によるCO2排出量共に2005年度から始めたクールビズ、ウォームビズを含めた地球温暖化防止活動がいっそう推進され、2008年度までに計画していた目標値をクリア			
	③エコプロダクツ ・開発製品の中で環境配慮型製品の占める割合:60%以上【参考:2008年度までに80%以上開発】 ・開発製品の中で従来機種比省資源10%以上の機種の占める割合:30%以上(対象項目 体積、質量、分解時間、消費電力) ・開発製品の中で従来機種比消費電力効率30%以上の機種の占める割合:20%以上	③エコプロダクツ ・環境配慮型製品の占める割合:75% ・同省資源10%以上の機種の占める割合:83% ・同消費電力改善率30%以上の機種の占める割合:42% 注:特に省資源10%以上および消費電力改善率30%以上の機種開発に関わる目標で年度目標を大きく上まわった。			
	<ul><li>④維持監視項目</li><li>・ゼロエミッション*3の維持: 埋立率1%以下</li><li>・無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持: 0件</li></ul>	<ul><li>④維持監視項目</li><li>●産業廃棄物と一般廃棄物の埋立率:0%</li><li>・自主管理基準超過件数:0件</li></ul>			

- ・低公害車の導入率を98%以上に維持

- 低公害車の導入率:100%
- 注:各項目共維持されていた。

- ①アンリツ(株)本社厚木地区での年間計画に基づく地域社会貢献活動
- ②アンリツ(株)本社以外の国内製造拠点における地域社会貢献活動の 年間計画を策定
- ①青少年のスポーツ振興支援をはじめとするアンリツ(株)本社厚木 地区での年間計画に基づく地域社会貢献活動の実施
- ②アンリツ(株)本社以外の国内製造拠点(東北アンリツ、アンリツデバ イス)における地域社会貢献活動の年間計画の策定と実施

<sup>\*1:</sup>売上高を日銀国内企業物価指数(電気機器)で割り戻した値です。

<sup>\*2:2006</sup>年度から、電力のCO2排出換算係数は電気事業連合会公表値を使用。(これまでは、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(2002年12月26日改正公布)の係数を使用) なお、2006年度目標および実績では2004年度値を暫定的に使用しました。
\*3:焼却、埋め立てとして処理を委託する廃棄物の割合が1%以下の状態を言います。

#### 今後のCSR活動に向けて

ここに掲げた2007年度のCSR各領域の目標は、2006年度のCSR活動に対するアンケート回答およびご意見・ご感想をはじめとするステークホルダーの皆さまの声を通して浮かび上がった課題を参考にして取りまとめました。2007年度は、日本以外の一部の拠点におけるCSR活動の目標をも含めました。これをもとに、グループ各社と各事業体が目標を掲げ、グローバルなCSRに向けた活動をさらに推進していきます。

評価 ◎:目標を大幅に超えて達成 ○:達成 △:達成率80%以上 ×:未達成

		T達成 ○:達成 △:達成率80%以上 ×:未達成					
2006年度達成度	CSR項目	2007年度目標					
O X	<b>CS活動</b> 品質向上活動 (p13-14)	①U.S.A.と日本の協働CS活動を軸にしたグローバルCS活動の立案と実行					
0 0 0 0	コンプライアンス (p15)	①コンプライアンス推進のPDCAサイクルの整備 ②企業倫理月間運動、コンプライアンス推進強化週間運動を核とした活動の継続的展 ③倫理アンケートの継続的実施と充実化 ④ケーススタディ(事例)シートの継続的発行 ⑤日本以外の拠点における法律に準拠したアンリッグループの行動規範を取りまとめ					
0	<b>サプライチェーン</b> (p17)	①調達方針およびお願い事項を、取引先に周知・理解していただき、取引先を絡めたSCM全体 ②U.S.A.およびU.K.におけるサプライチェーン強化に向けた海外取引先との連携強化					
0	<b>情報セキュリティ</b> (p18)	①重要な管理策の結果分析·評価 ②従業員教育·啓発活動の推進					
0		③事業継続活動の推進 ④日本以外の地域におけるグローバルセキュリティポリシー合致のための各施策の実	施				
0	<b>人権尊重</b> (p18)	①障害者雇用3か年計画の実行:2007年12月雇用率目標1.80% ···アンリツ(株) ②次世代育成支援行動計画に基づく活動をアンリツ(株)において実施					
		③U.S.A.における少数派優遇制度(Affirmative Action Plan)に基づく採用計画の継					
0	<b>従業員の尊重</b> (p19-20)	①労働安全衛生法が定めるリスクアセスメントの改善手順について規程化を図り、従業	<b>業員の安全と健康確保…アンリツ(株)</b>				
0	(F /	②アンリツ(株)の年間活動計画に記した重点方策に「過重労働による健康障害予防対 ③U.S.A.、U.K.、中国は、9月までに活動計画を作成し、計画に従い実行	策』を追加して実施				
0	環境 <b>経営の推進</b> (p21-28)	①廃棄物の削減・リサイクル ・廃棄物(一般廃棄物+産業廃棄物)の発生量を実質売上高 原単位で2006年度比2・U.S.A.における紙のリサイクル量を133,400lb以上	2%削減 【参考:2009年度までに6%削減】				
© ©		②省資源・省エネルギー ・電気エネルギーの使用量を実質売上高 原単位で2006年度比1%削減 【参考:2009年度までに3%削減】 ・エネルギー使用によるC02排出量を実質売上高 原単位で2006年度比1%削減 【参考:2009年度までに3%削減】 ・U.S.A.における: ・エネルギー使用量を2006年度比10%削減 ・紙の購入および使用量を2006年度比10%削減	環境目標についての補足項目の見直し: 廃棄物、CO2排出量、電気使用量の削減 目標は、2006年度に2008年度までの 目標値を達成しました。そこで、2007年 度目標は、2006年度実績を基準としてこ れをさらに改善する目標としました。				
○ ◎ ◎		③エコプロダクツ ・開発製品の中で環境配慮型製品の占める割合:70%以上 【参考:2008年度までに80%以上開発】 ・開発製品の中で従来機種比省資源10%以上の機種の占める割合:30%以上(対象 ・開発製品の中で従来機種比消費電力改善率30%以上の機種の占める割合:20%)					
0 0		④維持監視項目 ・ゼロエミッションの維持: 埋立率1%以下 ・無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持: 0件					
0	社会貢献活動 (p29-31)	①アンリツ(株)本社厚木地区での年間計画に基づく地域社会貢献活動の計画と実施 ②アンリツ(株)本社以外の国内製造拠点における地域社会貢献活動の年間計画を策え ③アンリツ(株)および国内グループ会社の社会貢献活動の方針および中期計画の策定 ④U.S.A.およびU.K.における地域社会貢献・従業員ボランティア活動の継続的実施・支援、					

## お客さまとの対話

アンリツは、世界中で展開されているお客さまのビジネスを十分にサポートできるよう、ローカル体制を強化する とともに、事業体制にも世界共通のアンリツスタンダードを設け、お客さまの声に真摯に耳を傾けながら、顧客満足 の向上をグローバルに図っています。

#### 世界中の地域とお客さまのために

アンリツは、グローバルな企業として、自らの事業活動を 世界に対して情報発信する社会的責任があり、また、世界の どこででもお客さまのニーズに地域レベルで応える大きな 責任があります。

こうした責任を果たすため、当社のグローバリゼーション センターはインターネットを活用して、製品やサービス情報を 各地へ同時発信し、アンリツのグループ会社や部門間での情 報共有を促進し、さらにアンリツの存在価値を高める教育や トレーニングを実施しています。

アンリツは、製品・サービスの品質向上のみにとどまらず、 世界的な視野で経営全般の品質を高めることによって、株主・ 投資家、顧客、取引先、従業員、地域社会などの幅広いステー クホルダーの期待に応えることを継続していきます。

これからも、CSR活動に焦点を当て、世界各地での活動を 通して社会貢献の努力を重ね、本業を発展させていきます。<br/>



ITU Telecom World 2006 に参加

従業員へのトレーニング

### 顧客満足こそ、アンリツ成功の鍵

アンリツは、売り上げの50%以上を日本以外で占め、社員の約40%がアメリカ大陸、欧州、 アジア地域で働くグローバルカンパニーとなりました。事業が世界に拡大するにつれ、従業員、 株主、お客さまに対する説明責任も、CSRの観点からますます重要になっています。当社の CSR推進プログラムは、これらのステークホルダーの皆さまにとっての当社の位置付けや 価値を進化させるプログラムです。さらに、お客さま第一主義の立場から、アンリツのビジネス 活動や環境問題に関わる法令遵守、倫理基準など、いっそう監視を強化していきます。

また、2006年には計測器事業部に、異なる国籍を持つサービス・スペシャリスト7名と 経営幹部2名からなる『グローバル・カスタマー・サービス委員会』を設立しました。委員会は アンリツのサービスの品質をモニターし、顧客調査のグローバル・データベースを作成し、 ベンチマークを定めています。この結果を顧客満足の改善に役立てています。

2007年、アンリツは、どの事業活動の中においても、お客さまのご要望に耳を傾け、 行動し、全力を挙げてお客さまの満足度の向上を図っていくことをお約束します。



アンリツ株式会社 取締役 専務執行役員 Mark Evans

#### グローバル調査からアクション計画へ

アンリツではお客さまの声に耳を傾けるために、毎年インターネットによる顧客満足度(CS)調査をグローバルに実施しています。さらに、この調査結果を効率よく改善計画に移すために、専門家集団による分析と必要に応じた詳細調査を行っています。

2005年度のCS調査では、サービス品質の向上をお客さまから指摘されました。そこで2006年度は、世界各地域のサービス部門の代表者で構成される改善チームを組織し、実際に測定器を使用しているお客さまを対象に、サービス品質について世界規模で詳細に調査しました。

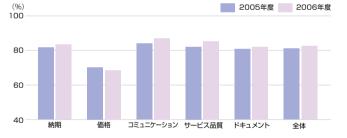
その結果、より迅速でより質の高いサービスを期待されていることが分かりました。また、携帯電話ビジネスに携わっている 北欧・アジアのお客さまは、世界のどこの工場で開発・製造した製品も均一で高品質であるという評価を得ることが最優先事項 であることから、グローバルなサービス品質の向上を強く求めていることが分かりました。

そこで、アンリツは、サービス品質全般を対象にしたISO9001および試験所・校正機関の国際認証であるISO17025の認証取得を進め、より水準の高いサービスをグローバルに提供してまいります。

#### お客さまにとって最も重視される項目(グローバル)



#### 2005年と2006年の保守面のCS調査結果(グローバル)



#### 日本での取り組み

2006年度に実施した日本国内でのCS調査では、営業面を除き、目標を達成することができませんでした(p11参照)。お客さまからいただいたご不満やご要望については、マニュアルの改善、生産革新活動の推進、Webによる土曜日の修理・校正受付などに取り組み、CSの向上を目指していきます。

CS活動の向上のためには、社員の意識と基礎知識の底上げが必要です。そこで、『アンリツ社員としての心構え』や

『プロセス別アクションガイド』、『情報管理ガイド』など、社員がお客さまとのWin-Win関係を構築していくための有用な情報を網羅した『CSガイド』を国内アンリツグループの従業員に配付しました。





### 誠実なコミュニケー ションで顧客と社会 に貢献

アンリツ株式会社 計測事業統轄本部 グローバリゼーションセンター シニア マネージャ

#### **Ted Thornton**

お客さまと一般市民の方々とのWin-Win関係の構築に貢献できるソリューションを提供する。これがアンリツの使命だと考えています。そのためには、まず、お客さまの声に耳を傾けて的確にニーズを把握するとともに、アンリツ自身の課題を明確にし、その改善に取り組むことが重要です。

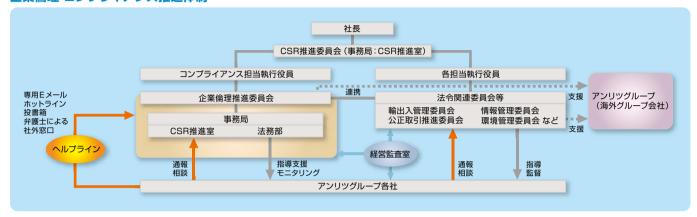
2006年度は、計測器事業統轄本部に『グローバル・カスタマー・サービス委員会』を設けるとともに、6,500人のお客様に顧客満足度(CS)調査を行いました。この調査をもとに現在さまざまな改革を行っていますが、それをお客さまにフィードバックし、さらに改善していくというサイクルを実行していくことで、説明責任と透明性を向上させ、お客さまや社会全体から信頼される企業になりたいと考えています。

この要となるのが、コミュニケーションです。事業活動のすべてにおいて、"誠実であること"を第一義とし、投資家やお客さま、地域社会などアンリツを取り巻くステークホルダーの皆さまに、その活動を"誠実に"発信し、アンリツの社会的価値を高めていきます。

董

倫理・法令を遵守した健全な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、 さまざまな施策を実施しています。

#### 企業倫理・コンプライアンス推進体制



#### コンプライアンス推進施策

当社グループのコンプライアンス推進施策は次の通りです。

#### ()アンリッグループ行動規節およびケーススタディシートの発行

#### アンリツグループ行動規範

事業活動における従業員などのコンプライアンス実践の指針です。 グループ全体のコンプライアンス推進のため、海外を含めたグループ 会社にも展開しています。

#### ケーススタディシート(事例集)

個々の具体的事例について簡単な解説・留意事項を記した事例集で、 2005年12月からイントラネット上で毎月発行しています。2006年 度からは工場現場の従業員などへの便宜を図るため、ポスター版の 作成・掲示を行うなど、周知方法を工夫・改善しています。

#### ②教育·啓発

倫理意識の向上を目的として、各種の教育啓発活動を実施 しています。

- 階層別教育(新入社員、新任幹部職等)
- 各委員会、部門による個別教育・専門教育
- Web教育
- •コンプライアンス推進イベントの開催
  - コンプライアンス推進強化週間運動

講演会·教育用ビデオト映など、さまざまなコンテンツで研修を 実施し、継続的な倫理意識の高揚に努めています。

#### • 企業倫理月間運動

2006年度から日本経 団連に合わせ、10月を 「企業倫理月間」として 活動を展開しています。 今回は桐蔭横浜大学コ ンプライアンスセンター 長の郷原信郎教授を招 いて、基調講演を開催 しました。また、期間中



に全部門がケーススタディを活用した職場内研修を行うなど、各自の 倫理意識の向上に役立てました。

#### ③モニタリング

コンプライアンス体制の定着状況、倫理意識のレベルを 確認するため、グループの従業員、派遣社員、仕入先・協力会社

の従業員などを対象にした 倫理アンケートを、Webなどで 定期的に実施しています。

2006年度のアンケート の結果を踏まえ、主に以下 の活動に取り組みました。



倫理アンケート結果の周知

- グループ会社やアイテムごとの分析を行い、各グループ会社や関連 部門・委員会が新たなコンプライアンス推進活動計画を策定し、実施 することとしました。
- •問題事例として指摘の多かったセクハラ・パワハラなど「ハラスメント」 への対応を最重点課題と位置付け、2007年4月開催のコンプライア ンス推進強化週間運動において、専門家の講演など、各種教育啓発 活動を実施することとしました。

#### 4 ヘルプライン

社内の倫理法令違反を未然に防ぐとともに、より働きやすい 職場環境づくりを目指して、通報・相談を受けるヘルプラインを 設けています。2006年度には数件の相談があり、「公益通報 者保護法 |に対応し制定した『内部通報規程』に沿って問題を解 決しました。また、弁護士による社外窓口も用意しています。

#### 経済産業省のアウトリーチ(普及・啓発)活動に協力

経済産業省が推進する「アジア地区輸出管理強化の ためのアウトリーチ活動 |の一環としてタイ・フィリピン

で開催された輸出管理セミ ナーで、アンリツ(株)が自社の 輸出管理の基本方針や体制 などを紹介しました。



財務報告の正確性に加え、業務効率の向上までを目的とし、グローバルに展開する内部統制活動を進めています。また、事業継続計画を策定し、お客さまをはじめとするステークホルダーに安心を提供しています。

#### 内部統制活動の進捗について

#### 2006年度に実施したこと

2006年4月に内部統制推進室を発足させ、「財務報告の 正確性」、「業務効率の向上」を目的とする活動を開始し ました。

経営者層・管理者層に加え現場の実務者も参加し、また国内グループ会社にとどまらず、海外グループ会社まで広げた活動とするために、社内報を活用した定期的な情報発信や社内研修を繰り返し、内部統制活動への関心を高めました。

2006年7月以降は、海外グループ会社を含めて主要プロセスにおいて選抜されたメンバーが、「業務の見える化」「リスクの把握 | の視点から業務プロセスを文書化してきました。



#### 2007年度の取り組み

2007年度は業務プロセスの確認・改善、意識向上、IT 環境の整備を軸に内部統制の取り組みを進めていきます。

2006年度に作成した文書が①当社の業務の実態と合致しているか、②リスクへの対応が十分に検討されているかについて、業務執行部門すべてに対して確認し、業務が正しい設計によって実施されていることを確認していきます。この活動において、リスクへの対応が十分でない場合や、非効率な作業が行われている業務プロセスを改善していきます。

これらの活動の前提として、全従業員に対して内部統制への意識を向上させる活動も並行して進めます。具体的には①トップダウンによる内部統制の目的・重要性の周知、②社内報・HPなどの媒体による周知、③海外も含めた重要拠点での内部統制説明会の開催を予定しています。また、内部統制とは企業活動のすべての領域に対する統制活動であることから、業務品質の向上に取り組む他の委員会とも連携を進めていきます。

また、内部統制活動においてIT環境の整備は重要な課題です。アンリツ(株)では3年前からISO27001 (ISMS)フレームワークを軸に、不足部分を補完する取り組みを進めています。

#### 事業継続計画(BCP)への取り組み

アンリツでは、自然災害に際して人命の安全と業務継続を図るため、大地震が起きた際の初動・復旧対応の具体的な行動計画を『リカバリープラン』としてまとめ、緊急時に備えてきました。

さらに今日では、事業継続を主眼とした事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)への取り組みが、お客さまをはじめとするステークホルダーから求められています。

しかし、あらゆるリスクを対象としてBCPを策定することは、人や資金などのリソースに制限があるため、困難です。 そこで、リスクシナリオ (発生状況や被害状況)をある程度特定した上で重要業務を絞り込み、その継続・復旧へのボトルネックを洗い出して対処することとしました。

企業価値を低下させないことを重要な課題と位置づけ、 社内横断的なリスク管理体制を構築するとともに、計測器、 情報通信、産業機械、サービス他の各事業単位に計画を策定 し、綿密なビジネス影響度分析と目標復旧時間の設定、サプ ライチェーンの製品供給体制の強化、リソースを確保する ための事前対策などを明確化していく予定です。

従来からの避難訓練、地震体験や消火器体験などの防災 訓練に加えて、初動行動訓練や緊急出社訓練も実施するな どの改善を行い、お客さまに安心して製品を使用いただける 「災害に強い企業」を目指していきます。

また、事業活動を支える重要な情報システムでは、データの 遠隔地保管や復旧手順書の作成などに取り組んでいます。 策定した手順は、定期的に検証を行っています。今後は事業 部門が算定する目標復旧時間をもとに情報システムの目標を 策定し、定期的評価を通して改善を図っていきます。



株主や投資家、仕入先や協力会社の皆さまとの公正で適切な関係の維持・発展のため、さまざまな形での情報発信や 双方向コミュニケーションを進めるとともに、それらを通していただいたご意見を事業活動に反映させています。

#### 株主・投資家との対話

アンリツ (株)は、社内規程に開示基準やプロセスを定め、情報開示・対話などのIR活動を積極的に進めています。また、活動を通していただいた貴重なご意見・ご助言を、経営・事業活動に活かしています。

#### 決算発表

四半期ごとの決算内容を、東京証券取引所や報道機関、 当社ホームページを通して広く開示するとともに、機関投資家・ アナリスト向けの決算説明会を行っています。

#### 株主・投資家との対話

株主総会に引き続いて株主懇談会を開催しています。社長の経営方針説明の後、株主と懇談の場を設けています。

機関投資家とは、経営トップ・IR担当者が、国内では各四半期決算後にスモールミーティングと個別ミーティングを、海外では欧・米・アジアに各1回出張して個別ミーティングを実施しました。また、四半期ごとに電話会議を実施しました。

個人投資家向けには、「日経IRフェア2006夏」に参加し、 対話機会を増やしました。いただいたご意見を、個人投資家 の情報ニーズとしてホームページに取り入れ、情報開示の 品質を向上させました。

#### 投資家向けホームページ

決算資料や決算説明会の音声資料、Q&A、製品や技術の解説、新製品や事業に関するニュースリリースなどを即時掲載しています。また、個人株主・投資家向けのページを設け、B to Bの業態を持つ当社を分かりやすく説明しています。

#### www.anritsu.co.jp/J/IR/

#### 外部からの評価

東証一部上場企業を対象とした日本コーポレートガバナンス研究所 (JCGR)の調査をはじめ、多くの第三者機関から当社コーポレートガバナンスに対して高い評価を得ています。例えば、2006年には、企業年金連合会のコーポレート・ガバナンスファンドに組み入れられました。また、大和インベスター・リレーションズ(株)により5年連続で「インターネットIR優秀企業賞」に選定されています。



#### 仕入先・協力会社との対話

アンリツは、調達活動で求められる社会的責任を果たしていくには、仕入先・協力会社を含めたサプライチェーン全体での活動が必要と考えています。2006年1月にアンリツが調達活動において遵守すべき『調達基本方針』を改訂し、さらに取引上において、仕入先・協力会社にお願いすべき事項についても明確に定めました。

その上で、年2回の情報交換会や掲示物などを通し、下記の『調達基本方針』および『お願い事項』を理解・周知していただくことに努め、信頼関係に基づくCSRを推進していきます。



取引先さまとの情報交換会

#### 【調達基本方針】

#### 1.取引先様の選定

公平かつ公正な考え方で、国内外を問わず常に新しい取引先様に広く 門戸を開放し、品質・価格・納期、環境対応などを重点に、適正な基準で かつ客観的な立場でお取引先様を選定します。

#### 2.パートナーシップ

すべての取引先様とは健全な取引を通じて相互に利益のある協力的 な関係を築くことを前提としています。

#### 3.法遵守、機密保持

取引にあたっては、関係する諸法規を遵守します。またお取引を通じて、お取引先様から得た情報を、承諾なしに第三者に公開いたしません。

#### 4.倫理概念に基づいた行動

調達業務にあたる者は、取引先様と個人的な利害関係を持つことなく 常に公明正大な業務の遂行をはかり、お取引先様との健全な関係を持ち続けることを基本においています。

#### 5.人権と労働への配慮

当社は人権を尊重し、労働衛生と安全確保に取り組んでおります。 お取引先様にもご賛同頂き、サプライチェーンとして、推進します。 若年労働者の使用や人種、性別等による差別など人権上の問題があれば、お取引を見直すこともあります。

#### 【お願い事項】

#### 1.法令・社会規範の遵守

・関連法規等の遵守、児童労働、強制労働、低賃金労働の禁止、差別の 禁止

#### 2.環境への配慮

- ・弊社グリーン調達ガイドライン、環境要求伝達事項等に沿った環境 対応の実現
- 3.優良な品質の確保、適正価格での提供、確実な納期遵守
- 4.機密情報の漏洩防止及び知的財産の尊重
- 5.不測の事態への迅速な対応とタイムリーかつ的確な情報開示

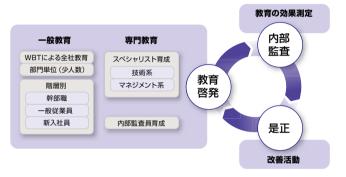
すべての人々の人権を尊重し、さまざまな人々が

安心して働ける職場づくりに努めています。

情報管理を企業リスクの重要項目としてとらえ、 経営陣で構成する情報管理委員会を中心に情報管理 に取り組んでいます。

#### 情報セキュリティ教育・情報倫理啓発活動と内部監査の推進

情報セキュリティの向上には、従業員の理解と情報倫理の熟成が不可欠です。これまでは集合教育やWBT (Web Based Training)でセキュリティ教育を実施してきましたが、さらなる向上を目的に2006年度から教育体系を見直し、一般教育では階層別・少人数制教育を、専門教育ではスペシャリスト育成と内部監査員育成を取り入れ、活動を開始しました。さらに、内部監査と連携させることで教育の効果測定と改善を進めています。



また、近年、社会問題となっているWinnyなどのファイル 共有ソフトによる情報漏えいを大きなリスクとして認識し、 グループ内の全社員が電子情報整理・点検作業を実施し ました。これにより全社員の情報倫理に対する意識向上と 漏洩リスクの低減を図りました。

#### 実施内容

- 社有PCでの営業秘密情報の保管禁止
- 私有PCの業務情報の削除徹底
- Winnvソフトのアンインストール

全社員の実施確認書の提出

#### 情報セキュリティ有効性評価の測定開始

重要な20項目の管理策に対する有効性評価の測定を 開始しました。今後は、本指標をもとに有効性の改善を図って いきます。

• 人的資源のセキュリティ・法令遵守	(4項目)
• 資産の管理	(2項目)
• 通信および運用の管理	(7項目)
• 情報資産に対するアクセスコントロール	(5項目)
• 事業継続管理	(2項目)

#### グローバルな情報管理活動の推進

グローバルなビジネス活動を支えるため、ITインフラストラクチャーの環境整備活動を行っています。各海外拠点のITスタッフと月例のTV会議と半期ごとのFace To Faceミーティングにより、さまざまな課題などの討議を行っています。

### 障害者雇用状況の推移

人権尊重

2004年12月に策定した法定雇用率達成3か年計画を達成するため、あらためて現状を経営層に周知し、計画に沿った継続的な採用活動を実施するとともに、障害者と職場が相互に協力して能力を発揮できる職域の開拓を促進しました。その結果2006年度に3名の障害者採用につながりました。3か年計画の最後の年である2007年度も継続的な活動を実施し、目標雇用率の実現に取り組みます。

障害者雇用3か年計画の進捗	2004/12	2005/12	2006/12	2007/12
3か年計画目標雇用率(単独)	-	1.23%	1.43%	1.80%
実績雇用率(単独)	1.17%	1.31%	1.48%	
参考:実績雇用率(国内連結)	1.20%	1.27%	1.33%	

#### 人権啓発活動の状況および今後の予定

人権啓発についてはこれまでの活動に加え、2006年設置した人権啓発推進会議の開催を通し、日常注意が必要な差別問題、セクハラ・パワハラ問題などに関する社内外の状況の理解促進とグループ全体への情報発信に努めました。今後の課題は身近な情報に加え、世界各地の混乱や貧困などグローバル企業の一員として今まで以上に意識すべき情報を従業員に提供し、啓発していくところにあると考えています。2007年度はNGOと協力し、現地の情報を盛り込んだ講演会や展示会の実施を通して、人権に対する意識を高めることにも焦点を当て、活動を推進していきます。

#### 両立支援の実施状況

両立支援については、ベビーシッター利用料補助制度を活用するなど、さらなる支援拡充に努めてきました。また、「的確な情報提供」と「制度の利用環境の整備」の2点を課題として認識し、まずは的確な情報提供を目指して、全社員にウェブサイトで周知する方法から、情報を必要とする対象者を特定し直接メールで提供する方法を試みました。その結果、新設制度の利用実績が出るなど改善の兆しが見られました。2007年度も引き続き支援のレベルを高めていきます。

#### アンリツ(株)次世代育成支援行動計画 計画期間(2004.4.1~2008.3.31)

目標	対策 ◎は実施済み、△は継続検討中
育児休職期間中の職場適応力や職務遂行	◎育児休職者向け自己啓発プログラム
能力の低下を防止し、円滑な職場復帰が	(通信教育)の実施
可能となるよう休職期間中の能力開発支	◎育児休職者に対する情報発信、共有
援プログラムを新設する。	ツール等の新設
病児など一時的な保育への支援として、	◎ベビーシッター利用者に対する利用料
育児サービス利用者に対する利用料補助	補助の実施
制度を新設する。	
学童保育への支援として、小学校低学年	△小学校低学年の子を持つ従業員に対
の子を持つ従業員に対する短時間勤務制	する保育時間適用の実施
度を新設する。	

会社と従業員がともに成長していくWin-Winの関係を築くことを目指し、従業員一人ひとりの個性を尊重しながら、 その成長につながる各種施策の充実を継続的に進めています。

#### グローバル社員育成プログラムの実施状況

アンリッグループでは、一人ひとりがグローバルな顧客と 対等なコミュニケーションを行えるように、さまざまな 教育研修、自己啓発プログラムを用意していますが、中でも ユニークなものがグローバル社員育成プログラムです。 その概要、2006年度の参加者の状況は以下の通りです。

プログラム名	概要	期間	1	2006年度参加者			
ノロノノム石	1144 55	찌미	日本	米州	EMEA	アジア他	
グローバル	経営者に求められる知識	2年間	6	2	5	2	
リーダー育成	修得、戦略立案を通して						
研修	将来のグローバル経営に						
	携わる人材を育成						
グローバル	各地域間の人材交流を通	1~	7	4	3	4	
人材交流	して異なる言語、文化、価値	12か月					
プログラム	観とともに幅広い視野を						
	習得						

アンリツ(株)従業員デ・	-9	2004年度		2005年度		2006	2006年度				
従業員数	男性	1,064	(243)	1,063	(251)	976	(230)				
( )は幹部職数で内数	女性	130	(3)	134	(4)	134	(4)				
	計	1,194	(246)	1,194	(255)	1,110	(234)				
平均年齢	男性	41.	3	41.7		41.	8				
	女性	33.0		33.0		33.0		33.7		34.6	
	計	40.4		40.8		41.0					
平均勤続年数	男性	18.0		18.4		18.3					
	女性	11.	3	11.	9	12.	2				
	計	17.	2	17.	7	17.	6				
年間所定労働時間数		1,875.5		1,875.5		1,875.5					
平均年次休暇取得日数		15.2		14.6		14.3					
育児休職取得者数		7		7		10					
雇用延長者数	対象者数	5		13		23					
(定年到達者の継続雇用)	延長者数	4		10		17					

グローバルに見た女性の活躍状況	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率	12%	33%	24%	29%	19%
(女性社員数/全社員数)					
男性を100とした女性の幹部職登用率	8%	59%	66%	50%	45%
((女性幹部職数/女性社員数)/(男性幹部職数/男性社員数)					



### 学生との出会い・・・ アンリツの"顔"として

アンリツ株式会社 人材開発部 採用グループ 深川 美咲子

一昨年は自らが就職活動をする側にいました。アン リツに就職する決め手となったのは、女性の勤続年数 が長く、離職率が低いことでした。実際、採用する側から 見ても、特に女子学生は働きやすさへの関心が強く、育 児休職などの両立支援制度や職場の人間関係などに関 する質問を多く受けます。私の場合も、就職活動の中で 接する方々の対応が非常によく、働きやすそうだと感じ たことが入社の大きな動機となりました。実際働いてみ て、その感じ方は正しかったと思います。学生にとって、 私たち採用担当者はいわばアンリツの"顔"です。これか らも採用プロセスのさまざまな機会を捉えて、一人ひと りの学生に真剣に向き合い、誠意を持ってアンリツの真 の姿を伝えることを心掛けていきます。

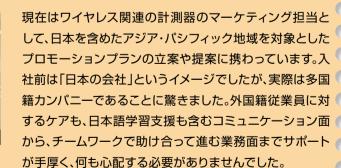
また近年は、技術系ではハイレベルな集団の中で自らを 高めていきたいと考える学生が、事務系では海外留学 経験者などで培ったグローバルな視野を活かして入社 後も世界を舞台に活躍したいと考える学生が増えてい ます。アンリツがそうした学生の意欲に応えられる企業 であることも、積極的に伝えていきたいと思っています。

### 外国籍でも心配無用の 手厚いサポート

計測事業統轄本部 ワイヤレス計測事業部 プロダクトマーケティング部 プロジェクトチーム

#### Parthiban Palanivel

インド出身です。6年前、日本の携帯電話メーカーとの プロジェクトのソフトウェアエンジニアとして来日しました。 その仕事の中でアンリツの計測器と関わるようになり、よ りハイレベルな最先端テクノロジーに触れられ、自分をさら に高められることから転職しました。今年で4年目になり、



今、インドや中国などの新興市場が成長中で、アンリツの ビジネスチャンスも大きく広がる可能性があります。将来的 には、そうした市場においてアンリツがシェアNo.1カンパ ニーとなるための役割を果たしていきたいと思っています。

従業員の安全と健康の確保は企業存立の基盤をなすものであると同時に企業の社会的責任です。 アンリツは人間尊重の立場から『安全第一』と『健康保持増進』を安全衛生活動の基本理念とし、快適な職場の 維持に努めています。

#### 安全衛生への取り組み状況

安全衛生管理体制を確立し、年間活動計画に基づく安全衛 生委員会の開催、設備の導入・移動時および化学物質購入時 の事前審査、管理者・実務者教育、各種研修会、作業環境測定、 職場巡視、喫煙対策の実施や職場からのヒヤリハット(危険と 感じる)体験報告に基づく改善・対策などを通して災害防止に 努めています。

2006年度は労働安全衛生法改正により、安全管理者に ついて経験の有無により選仟時研修の受講が義務づけられ たのに伴い、社内規程を改定しました。また、近隣事業場で 構成している安全衛生協議会においては、幹事会社として 積極的な役割を担い、労働災害防止などに努めました。



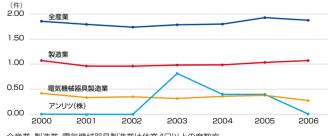




#### 労働災害発生状況

厚木地区では技術・開発が主たる業務のため、危険有害作 業がほとんどなく、休業に至る労働災害の発生確率は非常 に小さい状況です。2006年度は休業に至る災害はゼロで、 微傷災害が数件発生しました。微傷災害については、大きな 災害につながる可能性があるため、人・物・管理の面から改善 対策を図っています。

#### 労働災害度数率推移(100万時間当たり)



全産業、製造業、電気機械器具製造業は休業4日以上の度数率 アンリツ(株)は、休業1日以上の度数率

#### 長時間残業者の健康管理

過重労働による健康障害防止対策などを柱とした改正労 働安全衛生法が、2006年4月に施行されました。アンリツ はこれに伴い問診項目を増やして特別健康診断を実施し、 心身が不調な従業員を早い段階で発見し、医師による面接 指導が速やかに行えるよう努めています。

#### 長時間残業対策に向けて

国内アンリッグループでは、各部門における負荷の平準化を はじめとする所定外労働削減の取り組みを継続するとともに、 一部の職場では、仕事の進め方そのものを見直す試みを 行い、フレックス勤務などによって3~4割の残業時間の 削減に成功しました。

#### 安心して働ける会社

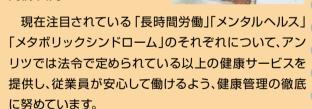
厚木地区では、従業員やお客さま の大切な命を守るためAED(自動体 外式除細動器)を設置しました。地域 の方もAEDが利用できるようにとの 思いから、正門守衛所にもAEDを 置き、設置マークを正門入口側に 掲げています。



### 従業員の健康管理は 職場ぐるみの 取り組みで

アンリツ株式会社 産業医 医学博士 労働衛生コンサルタント

#### 高橋 英尚



また、アンリツの頭脳である若手開発者には、どうして も負荷がかかりがちです。個人では解決できない問題も多 いため、上司の意識改革を促す研修を実施したり、本人の 同意のもと職場全体でフォローしたりなど、職場における ケア(ラインケア)を充実させることで対応しています。

アンリツには互助精神や、結果よりもプロセスを重視 する雰囲気など、昔ながらの日本企業の持つ良さがい まだに多く残っています。今でこそ貴重なこの企業風土を 次代に継いでいくためにも、今後は、従業員の家族も 含めた形で心身の健康増進と快適な職場環境づくりを 図り、従業員の健康管理を着実にレベルアップさせて いきたいと思います。

アンリツはグローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコ プロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。本報告書では2006年度のトピックスとなる活動を 中心にご紹介しています。

#### アンリツグループ環境理念

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、

誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

www.anritsu.co.jp/J/Environment/

サイト別環境データ集や化学物質の 使用状況など、より詳細な情報はホーム ページをご参照ください。

環境マネジメントシステム(ISO14001)の取得 を拡大するとともに環境監査の充実やパフォー マンスの向上に努め、環境に関するトップの コミットメントや実績情報を地域の人、株主 および顧客等のステークホルダーに開示する

社員一人ひとりが役割を認識し業務の 中で環境改善を推進し、社会的貢献を する社員になる

顧客を満足させる性能、品質、価格を備え た一流の技術のもとに、ライフサイクル 全体で環境に配慮し、かつ人の感性を 満たす製品を提供する



オフィスの省エネルギー、廃棄物管理、 省資源等を実施して、環境改善に努める とともに、その機能を生かし、エコプロダ クツの提供とエコファクトリーの発展に 向けて支援する

各プロセスにおいて法規制等の遵守と 環境リスクの低減を図るとともに、省 エネルギー、廃棄物管理、省資源等の 地球環境の改善に努める

本のも本来の本格が表現していまった。
国内グループ会社:アンリツ産機システム株式会社、東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カストマサービス、アンリツデバイス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、アンリツ興産株式会社、アンリッテクマック株式会社、株式会社アンリツブロアソシエ、アンリツネットワークス株式会社
海外グループ会社:Anritsu Company(アメリカ)、Anritsu Ltd.(イギリス)、Anritsu A/S(デンマーク)

### 環境経営のグローバル化をさらに推進

アンリツはこれまでにも環境負荷を削減するさまざまな施策を実施し、環境経営に積極的に取り組んできました。 しかし、当社の製造拠点は日本、アメリカ、イギリス、デンマークにあり、各国の文化習慣の違いから、取り組みの度合い

や環境意識に差があることも事実です。これを埋めるために2005年からはグローバル 環境会議を実施し、WEEE指令やRoHS指令への対応などで着実な成果を挙げています。 また、環境マネジメントシステム(EMS)の構築も進み、デンマーク以外の製造拠点では ISO14001認証を取得し、デンマークでもEMSの構築に取り組んでいます。

次のステップは、日本ではすでに進んでいる環境配慮型製品の開発を日本以外に広げる ことだと考えています。海外発の環境配慮型製品誕生を中長期的な達成目標として、製品 アセスメント手法のグローバル展開などに取り組んでいきます。

これらの取り組みの根本にあるのが、従業員一人ひとりの環境に対する意識の高まりです。 自律的な活動が進むよう、さまざまな機会を捉えて教育・啓発に努め、『エコマインド』の 醸成を図っています。

今後も、こうした活動を通して、さらなる環境経営のグローバル化を進めていきます。



アンリツ株式会社 執行役員 環境推進センター長 高橋 光一郎

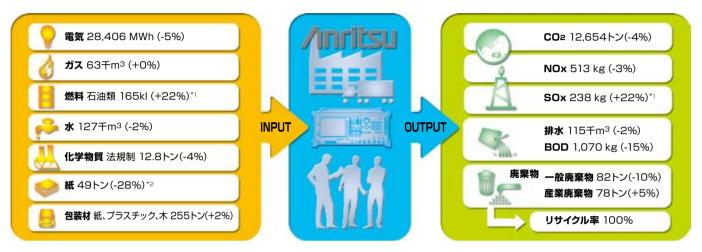
人権尊重

アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を貨幣単位・物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

#### 環境負荷マスバランス

アンリツ(厚木地区+棚沢地区+東北地区)の事業活動による環境負荷マスバランス\*を示します。()内は2005年度比です。 サイト別環境負荷マスバランスについては、www.anritsu.co.jp/J/Environment/mass\_balance.aspをご参照ください。

※事業活動と環境負荷の関連性をより明確に示すために、外部から企業内に持ち込まれる物質を物質名と物量で把握・表記し、企業から外部へ排出された物質と物量を把握・表記する対象表により環境負荷を表したもの。



INPUT 電気:工場・オフィスなどで使用する電力会社からの購入電力 ガス:エネルギーとして使用する都市ガス 燃料:エネルギーとして使用する重油、軽油 水:水道水、地下水(再利用水除く)化学物質:法規制を受ける化学物質(毒物、劇物、危険物、有機溶剤、特定化学物質) 紙:工場・オフィスで使用するコピー紙、EDP用紙 包装材:製品の包装・梱包材および物流時の梱包材

OUTPUT CO2:電気、ガス、燃料の使用に伴って発生する二酸化炭素(電気の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出係数は、電気事業連合会公表値(2005年度値)を使用しました)
NOx:ガス、燃料の使用に伴って発生する窒素酸化物 SOX:ガス、燃料の使用に伴って発生する硫黄酸化物 排水:工場・オフィスの工程系排水および生活系排水 BOD:生物化学的酸素要求量一般廃棄物・事業活動に伴って生じた産業廃棄物以外の廃棄物、固芥物、紙くず、よぐすなど) 産業廃棄物・事業活動に伴って生じた廃棄物のうち汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリなど「廃棄物の処理及び清湯に関する法律に定められた廃棄物 リサイクル・廃棄物を熟回収サーマルリサイクル)、再生利用(マテリアルリサイクル)により資林、原料または資源として用いること

- \*1:操業時間増などに伴いポイラー稼動時間が増し、燃料の重油使用量が増加しました。このためSOx排出量も増加しましたがSOxの法定排出基準は十分満足するものでした(東北地区)。
- \*2:帳票システムの変更によりEDP用紙の使用がなくなったことなどを含め文書類の電子化拡大により紙の使用量が大きく減少しました。

#### 環境会計: 2006年度の実績

2006年度の費用額は、EU指令等を含む有害物質対応などの環境配慮型製品に関連した費用が前年度比では15%の増加となっています。地球温暖化防止については、特高変電所の更新のあった前年度に対しては投資額が91%減少となりましたが、省エネ施策などによる効果に暖冬による影響が加わり、CO2削減量は2005年の2倍以上(1,084トン-CO2)となりました。

集計範囲:国内アンリツグループ会社 対象期間:2006年4月1日から2007年3月31日

環境保全コスト						効 果* 1
大分類	中分類		投資額(百万円)	費用額(百万円)	経済効果(百万円)	物量削減効果
事業エリア内コスト	公害防止コスト(リスク対策含む)		0 (0)	30.2 (23.7)	0 (0.0)	
	地球環境保全コスト	温暖化防止	3.6 (40)	16.1 (17.7)	39.0 (24.1)	1,084(トン-CO2) (453(トン-CO2))
	資源循環コスト	資源循環/活用活動		63.5 (52.0)	8.3 (8.3)	78.4(トン)〔74.3(トン)〕
		廃棄物処理費		35.8 (50.8)	11.1 (9.6)	(廃棄物焼却·埋立削減)*2
上下流コスト	グリーン購入/調達コス	<b>-</b>		36.2 (33.3)		
	環境配慮型製品設計 製品・容器包装等リサイクル、回収、処理			66.9 (58.4)	(54.1*1 [25.8])	1,531(トン-CO2)*1[609(トン-CO2)]
				7.3 (3.5)		
管理活動コスト	環境教育/人材育成			25.2 (23.9)		
	EMS運用·維持、内部監査			86.8 (100.4)		
	環境負荷の監視測定コスト			24.0 (27.1)		
	環境保全対策組織の人件費			32.7 (42.1)		
	緑化整備·維持			10.9 (10.0)		
社会活動コスト	地域・環境保全団体等へ	の支援·寄付		0.9 (0.6)		
	情報公開			8.8 (11.3)		
研究開発コスト	環境負荷低減のための研	开究開発		5.9 (11.4)		
環境損傷対応コスト	環境損傷対応のためのこ	コスト		0 (0)		
	合計		3.6 (40)	451.2 (465.7)	58.4 (42.0)	
					(54.1 [25.8])	
	2005年度比		-91.0%	-3.1%	+39.0%	

<sup>\*1:</sup>みなし効果は2003年度から廃止。ただし、2005年度から製品の使用時における環境負荷抑制効果( )内を公開。削減電力:3,603MWh[1,611MWh]

<sup>\*2:</sup>産業廃棄物の(排出量)-(焼却・埋立量)で求めた処分量の削減量。

### エコマネジメント:グローバルな取り組み

環境理念と行動指針を定めた環境方針のもと、グループー丸となって環境マネジメントシステムの構築・運用を 進め、グローバルな環境経営を推進するために、さまざまな取り組みを進めています。

#### 環境監査

2006年度の外部機関による審査では改善指摘事項は なく、10項目の改善要望がありました。また、環境マネジメン トシステムの適合性、有効性、環境パフォーマンスの向上を 確認する監査と法規制の遵法性を確認する内部環境監査を 行い、30件の指摘がありました。これらの指摘に対し、是正・ 水平展開を実施しています。さらに、環境経営の視点で実施 するNFC関係会社相互環境審査を厚木地区が受審しました。

これらの監査に よる課題の対応 により、効率的な 環境マネジメン トシステム構築 に努めています。



NEC関係会社相互環境審査

#### 遵法状況

法や条例で規制があるものは、これよりも厳しい自主管 理基準を設けて法の遵守に努めています。サイト別の自主管 理基準や運用結果はwww.anritsu.co.jp/J/Environment/ data.aspをご参照ください。

2006年4月に東北地区で放流水のpHが自主管理基準 値を超え、緊急遮断弁が閉じる事象が発生しました。原因を 調査した結果、酸性雨の影響と判明し、今後同じ事象が発生 した場合の手順を作成しました。それ以外には厚木地区、棚 沢地区、東北地区ともに基準に対し低いレベルで推移し、水 質・大気・騒音などの法違反はありませんでした。また、環境問 題に関しての訴訟、近隣からの苦情などはありませんでした。

#### グローバル環境管理会議

グループー丸となって環境経営を推進するため、定期的に グローバル環境管理会議を設け活動しています。2006年 度は、5月と10月に欧州・アメリカの海外グループ会社およ び日本から環境のエキスパートが参加しました。グローバル 環境管理会議のテーマは、大きく「環境保全 | と 「製品対応 | の2点があります。

環境保全は、海外グループ会社のISO14001認証の拡大 について取り組んでいます。2007年度に、海外グループ 会社の主要開発製造部門で認証取得する予定です。

製品対応は、法規制対応および環境配慮型製品の開発 について取り組みを行っています。欧州で施行されている WEEE指令およびRoHS指令だけでなく、中国版RoHSと 呼ばれている「電子情報製品汚染防止管理弁法」に関する グローバル共通基準を作成し、全開発拠点での一元的な 対応を行いました。また、2008年度には海外グループ 各社からも環境配慮型製品を開発していく方針です。

今後もメンバー間で情報を共有し、連携を深めながら グローバルな環境管理システムの構築をし、企業の社会的 責任の遂行に努力していきます。



グローバル環境管理会議

#### 環境方針

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、 人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

- 一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』を実現します。
- (1)開発設計から廃棄までのすべての事業活動領域で、環境へ与える影響を配慮した環境管理活動を実践する。
- (2)環境管理活動を実践するための組織・運営体制を整え、環境目的・目標を設定し、活動を展開する。さらに、内部環境監査を実施して、 継続的に改善する環境マネジメントシステムを確立し維持する。
- (3)環境にかかわる法規制等を遵守するとともに、自主管理基準を設定し、継続的な環境パフォーマンスの向上に努める。
- (4)汚染予防の視点からオフィス、ファクトリーの省エネルギー、省資源と廃棄物の削減を推進するとともに、異常時や緊急時に排水や化学物質の 漏洩等がないよう設備の予防処置を行う。
- (5)製品のライフサイクル全体で、省エネルギー、省資源、有害物質削減を行い、環境に配慮した製品を提供する。
- (6)この環境方針を周知するため、社内に掲示および文書で伝達するとともに、環境の教育・訓練を実施してその理解と意識向上を図る。



雇经济员

地球環境保護

一人ひとりが役割を認識し、業務の中で環境改善を推進し、社会的に貢献できるよう、環境意識の啓発と環境に関する専門知識習得につながる階層別・職種別教育などを実施しています。また、さまざまな啓発活動も行い、 従業員のエコマインド向上を図っています。

#### 新入社員向け環境技術教育

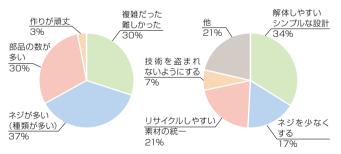
アンリツグループ新入社員を対象に、環境負荷を低減できる設計方法を習得し、リデュース(減量化)活動として実務に直結させるために、アンリツ興産リサイクルセンターで解体実習を実施しました。実習内容は、①パソコンの解体、②計測器、秤装置などの解体、③それぞれの相違点のレポート提出でした。

レポートでは、「パソコンと計測器、秤装置の違う点」について、「量産品であるパソコンはできるだけ組み立て工程を減少させ、シンプルな設計にまとめてある」が「計測器、秤装置は精密で長く使用できる点を重視しているため、ネジが多い、作りが頑丈」などの点が挙げられました。また、「自分が製品開発するとしたらどのような事を考慮するか」という問いには、「解体しやすいシンプルな設計でネジを少なくする」、「リサイクルしやすい素材の統一をめざす」などの意見が大半以上を占めたことから、今回の教育の目的が十分に果たせました。

今後もアンリツ興産リサイクルセンターを活用した解体実習などを展開し、リデュース活動につながる環境技術教育をさらに進めていきます。

#### パソコンと計測器、 秤装置の違う点

#### 自分が製品開発するとしたら どのような事を考慮しますか



対象者数:38名



#### 「クールビズ」、「ウォームビズ」への取り組み

2005年度から実施した「クールビズ」、「ウォームビズ」の活動をさらに推進するため、2006年度は、6月に管理職による地球温暖化防止啓発のビラ配りをもって国内グループ会社全体がキックオフしました。この活動を実のあるものにするには社員やお客さまの理解と協力が不可欠なため、先のビラや垂れ幕、電光掲示板、ポスターによる啓発をはじめとして、エコバッジの着用、お客さま来社カードホルダーへの啓発シール貼付、環境ニュース\*の発行などさまざまな啓発活動を展開しました。

今後も「クールビズ」「ウォームビズ」が「夏の常識」「冬の 常識 | として定着するよう活動を進めます。

\*:「エコ倶楽部」と命名し、2006年度からイントラネットで発行しています。



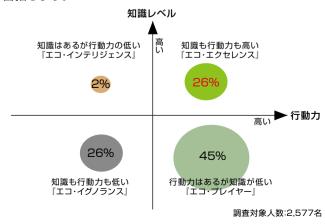


地球温暖化防止啓発のビラ配り

エコバッジ

#### 環境意識調査

環境経営の浸透度を測るため、国内グループ社員全員を対象に環境意識調査(環境に対する知識と行動に関する調査)を実施しました。回答率は41.6%で、環境知識レベルが高く行動も環境に配慮できている人を『エコ・エクセレンス』と定義したところ、全体の26%という結果になりました。この結果を解析して、教育計画に反映させるとともに継続的に啓発を行い、回答率と『エコ・エクセレンス』層の増加を目指します。



尊 董

### エコプロダクツ:環境に配慮した製品開発

エコ設計ガイドを規定化し、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施 しています。また、省エネルギー・省資源・クリーンな『環境配慮型製品』の開発を積極的に進めています。

#### 製品環境規制への対応

2006年7月1日に、欧州の電気電子機器における有害物 質規制「RoHS指令」が施行されたのに続き、2007年3月1 日には、中国版RoHS指令と呼ばれる「電子情報製品汚染防 止管理弁法」が施行されました。コンポーネントに関しては、 2006年7月からRoHS指令対応製品として出荷しました。 アンリツの主力製品である計測器と重量選別機は、安全お よび信頼性重視の観点からRoHS指令の対象外となってい るカテゴリー 9\*1に属していますが、中国版RoHSでは計測 器が対象となりました。中国版RoHSでは当面有害物質の 使用制限はありませんが、製品への環境保護使用期限\*2の

表示、包装材へのリサイクルマークの貼付 および有害物質含有情報の開示の義務が 要求されています。グローバル環境管理 会議のメンバーで共通基準を作成し、全開 発拠点で対応を統一しました。



環境保護使用期限表示

\*1: RoHSおよびWEEE指令において監視および制御機器が属するカテゴリー。 \*2:製品に含まれる有害物質が漏れたり突然変異を起こすことなく、環境汚染や 人体や財産に深刻な影響を与えない期間。この表示例では40年を示します。

#### 設計開発

省エネルギー、省資源でクリーン(有害物質を排除)な環境 配慮型製品の開発を推進しています。2006年度は、全開発 製品の75%が環境配慮型製品となり、環境目標としていた 「60%以上」を達成しました。また、グローバル環境会議では、 製品アセスメントの評価項目、評価基準や運用手順について 紹介しました。今後は、環境配慮型製品の開発を海外に展開 していきます。

#### 1) 設計源流からの環境取り組み

製品が環境に与える負荷のほとんどは、製品設計で決定 されるため、設計段階における製品アセスメントを実施して います。また、さらに源流の製品企画段階でも技術開発部門 や営業部門、マーケティング部門により製品の環境目標や 環境配慮事項を決定しています。

#### 2) 省エネルギー設計事例

製品の消費電力の削減を、地球温暖化防止とともに製品 競争力の一要素と捉え、省エネルギー設計に取り組んでい ます。EC2068A ギガアクセス伝送装置では、従来機種に 比べ消費電力を56%低減しました。



•ハードウエアのユニット化により、使用環境に適したポート選択を実現

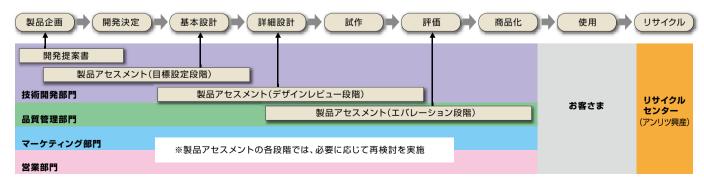
#### 製品概要

EC2068A ギガアクセス伝送装置は、12ポートのGigabit-Ethernetポー トを備えるレイヤ2\*1のスイッチです。電源の二重化や高速なレイヤ2リング 制御(アドバンス・クイック・リコンフィグレーション機能(AQR++)\*2)、リンク アグリゲーション (複数の物理的なリンクを仮想的な1本のリンクとして扱う 技術)により、ネットワークの高い信頼性を実現します。

- \*1:データ通信の7階層からなるネットワーク構造モデルの第2層(データリンク層)で、電気信号の誤り検出 などが行われます。
- \*2:通常のスパーングツリー(ループ状に形成されたネットワーク内で、データが永遠に循環するのを防止 するための制御手法)では、不意にリンクダウンが発生すると、データ送信再開まで50秒程度の時間を 要します。これを、早急に回復する機能です。

#### 3) 製品のクリーン化

アンリッグループでは、製品に含まれる有害物質の削減に 努めています。欧州 (EU)でRoHS指令が施行されたことを 受け、有害物質対応設計をより強化してきました。有害物質を 設計段階から削減するために、電気部品中の鉛やめっき、 塗装などに含まれる六価クロムの含有量調査を行い、不適 当なものについては、部品代替などにより削減対策を検討 してきました。例えば、はんだめっきには鉛が含まれていま すが、鉛を含まない錫めっきに変更すると、はんだの密着 性、濡れ性、リフロー性、ウィスカの発生など多くの問題が 牛じます。これらの問題を解決するため、専門のワーキング グループを設立し、製品のクリーン化を進めてきました。



雇经济与

アンリッグループでは、環境配慮型製品の中でも特に環境負荷を抑えた製品を『エクセレント エコ製品』と定義し、その開発を積極的に進めています。

#### エクセレント エコ製品

アンリッグループが独自に定める製品アセスメントを実施し、業界をリードする環境配慮性を持つなど、一定の環境配慮基準を満たす製品を『エクセレント エコ製品』と定義しています。『エクセレント エコ製品』の環境情報は、カタログやホームページで公開しています。アンリッは、従来機種の定期的な登録見直しを行っており、2006年度には新たに加わった4機種を含め、12機種の『エクセレント エコ製品』を提供しています。

#### エクセレント エコ製品の主な環境配慮基準

- •業界トップレベルの環境配慮事項がある
- •製品に関する環境情報を開示できる
- •製法アセスメント(製造段階での評価)を実施している
- •LCA (Life Cycle Assessment)を用いてCO2排出量を評価している
- •製品の事業主体および主要生産拠点は、環境マネジメントシステムを構築している



『エクセレント エコ製品』には、カタログなどに左のマークと製品に関する環境情報を併記した表示をしています。

### キーデバイスを一新して 省エネを実現

アンリツ(株) 計測事業統轄本部 ワイヤレス計測事業部 第1開発部 プロジェクトチーム 主任

#### 田中 孝典

MT8820Bは、携帯電話端末の検査や調整に使用さ れる計測器です。生産ライン上で利用されるため、スペー ス効率が求められます。従来機種では一方の側面から空 気を取り入れ、もう一方の側面から排気することで機器 内部の熱を逃がしていたため、機器の周りに空間が必要 でした。MT8820Bは背面排気することで、生産ライン のコンパクト化に貢献しています。そのために、まず機器 内部の熱発生を抑える省電力設計を追究しました。たと えば電力をもっとも消費するRFコンバータと呼ばれる 機構は、回路も部品も一新し、部品点数も徹底的に削減 しています。こうした改善の積み重ねで、消費電力を従来 機種の2/3まで低減しました。さらに、内部の空気抵抗を できるだけ少なく設計することで冷却用のファンの数を 減らし、稼働音を5~10dB低減させて静音性も実現し ています。今回は従来機の改良でしたが、今後の新規開 発機種については、消費電力をさらに減らすとともに、現

在は使用を認められている有害物質についても全廃に向けて取り組みたいと思っています。



MT8820B ラジオ コミュニケーション アナライザ

### 2台分の機能を 1台で実現

アンリツ(株) 計測事業統轄本部IPネットワーク計測事業部プロダクトマーケティング部プロジェクトチーム 主任

#### 鈴木 敏浩

ブロードバンド化が進み、家庭にまで光回線が張り巡らされるようになった今日、快適な通信の鍵を握るのが データを高速に伝送するためのデバイスです。

MP1800Aは、こうしたデータ伝送用デバイスの性能を評価するための計測器です。位相可変器の大幅な小型化や、高集積デバイスを採用し、今までは2台の装置で提供していた送信と受信機能の一体化を実現しました。これにより、従来製品の70.0%の体積、66.7%の質量、70.8%の消費電力を達成しました。MP1800Aでは測定用モジュールを実装するスロットを6つ用意することで、1台で複数個のデバイス評価が可能になります。また、モジュール形式を採用しているため、お客さまのニーズに最適な構成で提供できることも大きな特徴です。

今後は、今回完成したプラットフォームをベースに、 通信市場以外の新たな分野にも貢献していきたいと考 えています。



MP1800A シグナル クオリティ アナライザ

### エコプロダクツ:グリーン調達 /エコオフィス

環境に配慮した製品を提供するためには、製品を構成する部品や材料などの環境負荷が低減されていることが 不可欠です。アンリツでは『グリーン調達ガイドライン』を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達する グリーン調達を全社的に推進しています。

#### サプライチェーンマネジメントの推進

#### 環境パートナー認定制度

グリーン調達においては、調達品の環境配慮に加えて、什入 先・協力会社(サプライヤ)自身の環境に対する取り組みも重要 です。アンリツでは、環境パートナー認定制度を設け、サプラ イヤの環境取り組みの推進を図るとともに、サプライヤへの

協力支援を行っています。

#### 環境パートナー企業新規認定/更新の状況





環境パートナー認定証授与式

#### 有害物質の管理

有害物質を製品から排除するには、サプライヤと、さらに そこに連なる企業が、製品に含まれる化学物質を適切に管理 することが必要です。そのためアンリツでは、現地確認による サプライヤへの指導、支援を開始しました。2006年度は、 表面処理を行うメーカ約50社について、現地確認を実施す

るとともに、サプライヤ への説明会を開催し、 有害物質管理の強化に 取り組みました。



サプライヤ説明会

#### 有害物質の調査

アンリツは、調達部材の有害物質の調査を行っています。 調査結果は、環境データベースに登録し、部品選定や工程で の部品管理に活用しています。2006年度は、より効率的な 管理を行うため、有害物質情報と鉛フリーはんだ情報を統合

した新たなデータベースを 構築するとともに、調査体 制を強化しました。また、 有害物質情報の信頼性を 確保するため分析装置を 導入し、自社での分析体制 の構築に取り組みました。



グリーン調達システム(環境データベース)

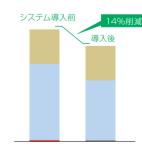
#### We-MeCシステム導入による環境負荷低減

アンリツ計測器カストマサービスでは、お客さまへの サービス向上を目的として、We-MeC (Web's Measuring Instrument Communication System)を開発し導入し ました。これは測定器の修理・校正依頼をWebで受け付け、 進捗状況もWebで確認できるシステムです。



依頼情報に基づいて修理・校正する事業所を決定し、運送 業者がお客さまに出向いて引き取り、配送する仕組みを構 築することで、輸送距離を半年で98万キロ削減できました (2006年度上期実績)。ただし、輸送距離削減や伝票類の 一部廃止による紙使用量削減のメリットがある一方、情報を 管理するサーバーが必要なため電気使用量が増加します。日本 電気株式会社殿のご協力を得て導入前後の環境負荷を比較 したところ、14%のCO2排出量削減効果が確認できました。

今後もサービス向上とともに、環境負荷を低減できる ような施策を検討していきます。



#### CO2排出量比較

道 λ 前の全体量に対する各項目の割合

サバいのエけ玉に刈りの口が口の町口						
	導入前	導入後				
梱包材の使用	27.2%	25.1 %				
計測器の輸送	72.4%	60.6%				
機器使用	0.0%	0.1%				
その他	0.4%	0.0%				
合計	100.0%	85.8%				

雇客流

誠実な企業活動

日本国外のグループ会社も含め、工場での地球温暖化対策、廃棄物対策などの活動を継続的に実施し、環境負荷 低減を推進しています。こうした取り組みが外部から評価され、2006年度はアンリツ株式会社、アンリツ・カンパニー (アメリカ)が環境表彰を受けました。

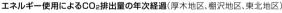
#### 地球温暖化防止の取り組み

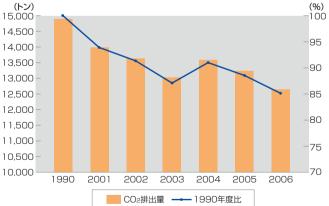
温室効果ガスの排出量の大部分はエネルギー使用によるものであるため、国内アンリツグループではエネルギー使用の削減目標を定め、活動しています。2006年度は、照明のインバータ化、ターボ冷凍機の更新など設備面での省エネ化や、照明に紐をつけてこまめに消灯したり、工場にエアーを供給するコンプレッサーの圧力を下げることにより無駄な電力を低減させるなど、運用面での省エネ化を図りました。その結果、2005年度と比較して二酸化炭素(CO2)排出量が4.5%削減となりました。

また、6月15日から9月30日までを夏期地球温暖化防止活動(クールビズ)、12月1日から3月31日までを冬期地球温暖化防止活動(ウォームビス)期間と定め、空調設定温度(夏期28℃、冬期20℃)の徹底を中心に取り組みを行いました。2006年度は、2005年度の活動成果と比較して、電力は1,264MWh、二酸化炭素排出量は510トン削減できました。

2006年度削減成果(2005年度削減成果との比較)

	クールビズ		ウォームビズ	
	節電量 MWh	CO2削減量 トン	節電量 MWh	CO <sub>2</sub> 削減量 トン
厚木地区	+645	+295	+543	+231
棚沢地区	+40	+20	+47	+24
東北地区	-19	-4	+8	-56
全体	+666	+311	+598	+199





#### 東北アンリツの廃棄物リサイクル活動

東北アンリツは、1986年の操業当初から廃棄物の3R活動に取り組み、割り箸から繰り返し使用できる箸への変更、昼の定食を一皿盛からカフェテリア方式に変更して食べ残しを減らすなどで廃棄物の発生を抑制してきました。また、分別により、廃棄物のリサイクル化をすすめ、2001年度にアンリツグループで最初にゼロエミッション\*を達成しています。

2006年度は、梱包材のプラスチックを材質別、色別の細分化をさらに推し進め、有価物として排出することにより、 生産増による廃棄物増加の要因がありましたが、2005年度 レベルに抑えることができました。

\*事業所で発生するゴミを、製造工程や他の産業で原料として再利用することによって、廃棄物ゼロを 目指す活動のことです。

#### 東北アンリツの廃棄物排出量の推移



#### 環境表彰

アンリツ株式会社は、厚木地区廃棄物対策協議会より、協議会の副会長会社の役割を担うとともに、長年にわたり協議会の運営に貢献してきたことから「協議会表彰」を受賞しました。



協議会表彰授賞式

アンリツ・カンパニーは、本社のあるモーガンヒル市から 環境表彰(Excellence Award for Stewardship of the Natural Environment)を授与されました。軽量化、省 エネルギー化を図ったハンドヘルド測定器の開発や、水や 廃棄物の削減などで環境負荷の軽減に努めたことが高く 評価されました。



モーガンヒル市での授賞式(右がモーガンヒル市長)

地球環境保護

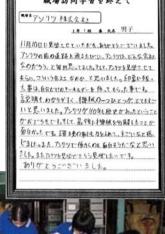
良き企業市民として社会と協調し、ともに発展していける多様な社会貢献活動を、グループ全体の統一活動として行っています。 地域社会、一般社会、国際社会それぞれに対する活動のトピックスをご紹介します。

#### 地域社会への貢献

#### 中学生職業体験学習

アンリツ(株)本社のある厚木市では、市立中学校の生徒が 地域の企業や商店で実際に仕事に従事する『職場体験学習』を

実施しています。アンリツで は、2006年度、近隣の2校 からそれぞれ5名の生徒を 受け入れ、さまざまな職場で 実習を行いました。特に環 境意識の育成を目的とした リサイクルセンターでの製 品の分解作業体験が好評 でした。





#### 高校生のインターンシップ

2005年度に引き続き厚木商業高校の生徒を受け入れ、 3日間の受付・電話交換業務の職業体験の場を提供しました。

#### フューチャーテクノロジー部門のエクスターンシップ支援

アンリツA/S (デンマーク)のフューチャーテクノロジー (FT)部門は、教育機関の学外で実務を経験するエクスターン シップによって、学生の卒業論文作成、新技術の探求を行っ ています。1991年以来現在までに213人の学生が77のFT プロジェクトに参加し、うち13人をアンリツA/Sでは雇用し ています。学生はいくつかのステップを経て新技術による 試作品を開発します。これらのプロセスは、アンリツ製品の

仕様変更プロセス などの改善につなが ることもあります。



学生が開発した試作品

#### 青少年のスポーツ振興支援

アンリツ(株)は、1995年の創業100年記念社会貢献事業 の柱の一つとして厚木市サッカー協会と同傘下の少年委員 会を後援しています。毎年2月に開催される厚木市招待少年 サッカー大会への物的支援援助と、アンリツ杯などの後援活 動を行い、サッカーを通した少年の健全育成とスポーツ振興 に努めています。今年のサッカー大会には関東・東海・北陸の



サッカーチームが招 待され、2月24、25日 の2日間にわたって強 風の中熱戦が繰り広 げられました。



#### 地域産業振興

アンリツは厚木市主催の『"あつぎ未来"オールテクノフェ スタ2006』に参加しました。この催しは厚木市にある企業・ 大学等の優秀な技術を紹介し、青少年が最先端技術などの 科学・技術に触れる機会を設け、ものづくりに対する興味・関 心を熟成し、地域経済の振興に役立てることを目的としてい ます。2006年度は11月17日から3日間開催され、最新の 通信用計測器をはじめ、本業を通した社会貢献活動を紹介

する製品パネルを 展示し、近隣の小・中 学生が最先端技術 に触れる機会を提 供しました。



#### モーガンヒルでの地域活動

アンリツ・カンパニー (アメリカ)では、本社のあるカリフォルニア州モーガンヒルを中心に、「リーダーシップ・モーガンヒル」や「メイク・ア・ウィッシュ」などのイベントの支援や、「全米自転車通勤週間」への参加など、さまざまな地域貢献活動を行っています。



「リーダーシップ・モーガンヒル」は、地域に奉仕する将来のリーダーを育成するためのプログラムです。



アンリツ・カンパニーの従業員やお客さまが、「メイク・ア・ウィッシュ」に参加。木から札をとり、そこに書かれているものを、恵まれない子供たちに贈ります。



10万人はエのグラクオルニアは氏 が参加した「全米自転車通勤週間」 (2006年5月15日~19日)に、アンリツ・カンパニーの 従業員も参加しました。

#### 「愛の一円運動」

アンリツ厚木本社内および関連事業所の売店で引き続き 実施し、募金を厚木市社会福祉協議会に寄付しています。

#### 地域清掃活動

毎年実施しているクリーン活動として、2006年6月21日、 アンリツ本社周辺道路の清掃をボランティア活動として

実施しました。当日は戸田社長をはじめ、64名の従業員が参加しました。



#### 東北アンリツ杯囲碁大会後援

東北アンリツでは、日本棋院郡山支部主催の「東北アンリツ杯囲碁大会」を2000年から後援しています。回を追うごとに参加者が増え、2007年2月12日に開催された第七回大会は、郡山地区だけでなく会津、福島、いわきなど福島県内全域

から、小学1年生から80歳を越える方まで老若男女144名が参加する盛大な大会となりました。



#### 一般社会への貢献

#### 献血活動

アンリツの従業員による献血活動は、神奈川県湘南 赤十字血液センターとの協賛により、1968年から39年 間にわたって続いています。この永年の功績が評価され、 2006年11月、日本赤十字社から『金色有功賞』を受賞し ました。なお、2006年度は春と秋の2回実施し、125名 の従業員が協力しています。





#### 緑の募金活動

2005年9月から厚木本社内に、売上金の一部が「緑の募金」として寄付される自販機を設置しました。2006年度は、苗木寄贈本数としてマサキ66本分、ソメイヨシノ43本分に相当する募金がありました。

#### 国際社会への貢献

#### 使用済み切手・カード収集

従業員が自ら参加し、継続性のあるグローバルな社会 貢献活動を目指して、2006年度の新たな社会貢献活動 として『使用済み切手・プリペイドカードの収集活動』をは じめました。この活動では、長年海外で地域社会の支援

活動を展開しているNPO(日本アウンティアの協働を表現しています。)とのはまずのはか、NPO支現していまかが、NPO支援のボランティアした。今後もしていきができないます。



**使用多な切手・プリペイドカードの収集注** 



ボランティア・バザ-

#### インドネシア・ジャワ島地震に対する救援金募金

アンリツは2006年5月27日、インドネシア・ジャワ島で発生した地震による被災者を支援するため、社内の従業員に救援金を募りました。救援金募金は日本赤十字を通して、全額被災者の救援活動に生かされました。

ボランティア情報の定期的な提供方法について検討を進めていきます。

**従業員のボランティア活動に対する支援**アンリツ(株)は、従業員の短期・長期ボランティア活動参画に対する支援制度(有給休暇付与等)の運用を、2006年4月から開始しました。まだ利用者はいませんが、今後は、制度を有効に機能させていくため、外部団体との連携を含めた従業員への

#### 労働組合における社会貢献活動

社会貢献の項目	社会貢献の内容	開催時期(予定)	備考(補足)
環境対策活動	相模川河川美化清掃への参加(厚木市主催)	5月下旬	毎年20人程度参加(1992年頃から実施)
	相模川河川美化清掃への参加(厚木愛甲地域連合主催)	8月下旬	//
	厚木市中央公園・周辺美化清掃への参加(厚木愛甲地域連合主催)	11月	//
障害児·者	ティッシュペーパーの斡旋(電機連合神奈川地方協議会主催)	12月	障害児·者への支援(1979年から実施)
対策活動			2006年実績 2450個、416,500円(内、カンパ益262,150円)
	カレンダー等の斡旋(口と足で描く芸術家協会)	12月	障害者奨学金等への支援(1978年頃から実施)
			2006年実績 440人購入、444,660円
カンパ活動	電機連合「愛の基金」へのカンパ	12月(定期)	災害時救援カンパとして一人15円/年
	災害時(大規模災害時)救援カンパ	随時	会社との共同実施
	個人救援カンパ	随時	高額移植手術等へのカンパ
	福祉団体等への寄付(日本赤十字社、厚木市社会福祉協議会、等)	6月	組合行事等でチャリティーを実施(1990年から実施)
地域活動	年末交通キャンペーンへの参加(厚木愛甲地域連合主催)	12月	本厚木街頭での飲酒運転防止呼びかけ



### 長い歴史を持つ 企業ならではの視点で

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター (JVC) 広報 広瀬 哲子様

2006年の夏からお付き合いいただき、使用済み切手やプリペイドカードの収集を通してカンボジアの農村での収穫を増やす農法の研修にご協力いただいています。カンボジアをはじめ、東南アジアの農村の貧困は、まさにグローバリゼーションの負の遺産です。アンリツも売上げの半分が海外であるということですので、従業員の方一人ひとりがこれまで以上に世界の状況に関心を持っていただければと思います。その意味で、今回の使用済み切手やカードの収集は、誰もが参加しやすく、続けやすく、しかも世界の貧困地域で起こっている問題解消の第一歩となる、とても有意義な活動だと思います。グローバル企業であるアンリツと一緒に何をやっていけるかは、私たちにとってもこれからの課題だと捉えています。

また、アンリツは100年を超えて存続している企業です。 そうした歴史と伝統ある企業ならではのサステナブル な視点で、今後もさまざまな社会貢献活動に取り組ん でいただくことを期待しています。

## 企業情報の発信 ステークホルダーの皆さまのご意見・ご感想

2006年に発行したCSR報告書に対するアンケートや、ステークホルダーの皆さまへのCSR活動説明会の場で、 さまざまなご意見やご感想をいただきました。今回のCSR報告書を作成する上で、特に参考にさせていただいたものを ご紹介します。また、ステークホルダーおよび社会の要請に基づくアンリツの主要な課題を抽出・整理しました。

#### 「アンリッCSR報告書2006」およびCSR活動へのご意見・ご感想

ご意見・ご感想内容	アンリツの改善内容	該当ページ
・企業行動憲章にリンクさせた活動が解りやすい。(NPO)	・企業の姿勢を社内外に理解いただくために、報告のフレームワークと	全体
・章立てが明確であり、関心がある箇所を見つけやすい。ただし、ステーク	して企業行動憲章を継続して採用しました。ステークホルダーごとの記事	
ホルダー別に報告して欲しかった。(企業管理職)	は、当ページの下側の表に該当ページを示しましたので参照願います。	
・全般的に文字が多い。データは表で示してほしい。いろいろなレベルの	・文字をより少なくし、図表や写真を多く掲載し、見やすい報告書となる	
読者に対して報告する立場から、もう少しアピール性を意識した方が	ように心がけました。	
読みやすい。(学生)		
・いたずらに分厚い報告書が多い中、30ページ程度に必要なデータを	・必要最小限のデータを冊子版に掲載し、詳細データは逐次ホームページ	
まとめている。ただし、環境以外の定量データが少ないと思う。(NPO)	に掲載していきます。	
・環境に偏った記述となっている。また、環境会計に加え、CSR会計の	・環境に関するページ配分を12から9ページとコンパクトにまとめま	8′
取り組みも検討すること。(CSR専門家)	した。CSR会計については、今後の課題としました。	21~28
・人道的対人地雷検知の続編を希望する。海外におけるNPOのインタ	・人道的対人地雷検知への貢献をトピックス記事として紹介しました。	7
ビュー記事を期待します。(CSR専門家)	まだ実験段階ですので実験風景を記事にしました。	
・CSR活動に関してどの方向に行こうとしているのか見えない。	・CSR活動の3年後のあるべき姿(達成像)を取りまとめました。	9,10
(CSR専門家)		
・長期計画、現状が見えない。(学生)	・上記の達成像をまとめるプロセスの一環として社長と3年後のCSR	
・社長と従業員の対話記事を希望する。(企業管理職)	活動のあるべき姿について話し合いの場を持ちました。	
・制度の有無でなく、ステークホルダーの視点から見た課題や効果を	・各ページにおいて現時点で可能なかぎり改善しました。	9~33
報告して欲しい。具体的効果や課題報告を希望する。(CSR専門家)		
・CSR目標は従来から行われていた事項やISO規格の要求事項であり、	・CSR活動の目標設定に際しては、CSRアンケートや外部有識者の視点を	11, 12
必ずしもステークホルダーの視点から割り出したものではなく、その	含めました。	
アクションが見えない。(CSR専門家)		
・グローバルCSRが課題であるならば、グローバルなCSR目標を設定	・日本以外の一部の拠点における目標を、アンリツの2007年度の目標に加え	
してください。(CSR専門家)	ました。	
・P、Dは見えるが、C、Aが不十分です。経営活動プロセスに重点を置いた	・CSR活動の事後評価・分析(C)、および改善活動(A)に配慮した取り	11~31
CSR活動を望みます。(CSR専門家)	組みと、その報告に努めました。	
・PDCAを意識した活動になっています。(NPO)		
・会社視点のみでなく、社員視点の報告および従業員の活動情報が少	・従業員のコラム記事を5件掲載しました。	14, 19,
ない。ステークホルダーとしての従業員の姿が見え難い。(企業管理職)		26
・日本以外の従業員への対応を知りたい。(学生)	・日本国籍以外の従業員のコラム記事を掲載しました。	00 00
・環境情報も環境経営の6項目で報告して欲しい。(学生)	・2006年環境経営の項目に含めていた社会的貢献項目を社会貢献活動に	23~28
WEWA A RELICE AND A LITTURE TO THE LANGE AND A L	統合させ、本報告書においては5項目の構成に反映しました。	
・労働組合の意見やコメントも報告することを検討ください。(NPO)	・労働組合の意見やコメントは次回以降の課題としました。	32
・ステークホルダーから見た課題にどんなものがあるかを紹介し、その中	・アンリツのCSR活動および本報告書に対するご意見・ご感想ならびに	32
から抽出した課題を報告して欲しい。(CSR専門家)	各種アンケート結果を分析して、課題を整理しました。	
・ステークホルダーの指摘を次年度の報告書に反映している。ただし、	・ステークホルダーを意識した取り組みを全体を通して行っています。 	
ステークホルダーを意識はしているが、取り組みが不十分であると		
思います。(学生)		

#### ステークホルダーおよび社会の要請に基づくアンリツの主要なCSR課題

ステークホルダー	課題	該当ページ
全体	CSR活動の達成像、内部統制、BCP対応	10、15、16
	個人情報保護	18
お客さま	グローバルCSの向上	13,14
株主·投資家	IR情報の開示	17
仕入先·協力会社	サプライチェーンにおけるCSR、児童労働・強制労働の禁止	17
従業員	障害者雇用、両立支援	18
	職場のグローバル化、日本以外の国籍の従業員への支援	19
国際社会	人道的対人地雷の除去	7
地球環境	リサイクル、エコ製品開発・製造、工場・事務所での環境負荷低減の取り組み	21~28
地域社会	ボランティア活動支援、日本以外の地域貢献活動	29~31

人権尊重

## グローバル・コンパクトの原則と関連記事の対照表

2006年版報告書の第三者評価コメントでいただいた「グローバル・コンパクトの10原則について行った努力を、原則に関連付けて記載すること」という要請にお応えするため、グローバル・コンパクトの10原則に関連する主な取り組みと該当ページを以下に示します。

グローバル・コンパクト10原則		グローバル・コンパクト10原則	2006年度の主な取り組み	該当ページ
共通		グローバル・コンパクト10原則全体	・アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)を描きました。	10
			・行動規範を海外グループ会社に展開しました。	15
			・倫理アンケートを従業員、非正規社員、取引先に実施し、さまざまなリスクを	15
			回避する取り組みを実施しました。	
人権	原則1	企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言	・人道的対人地雷除去に対してアンリツ製測定器提供を通して貢献しました。	7
		されている人権の擁護を支持し、尊重する。	・取引先に対し、人権保護の法令遵守を依頼しました。	17
			・従業員に対する人権教育を実施しました。	18
			・職場における労働安全衛生を確保する活動を推進しました。	20
	原則2	人権侵害に加担しない。	・コンプライアンス強化月間を実施しました。	15
			・取引先にも協力を依頼しました。	17
労働	原則3	組合結成の自由と団体交渉の権利を実効ある	の権利を実効ある・次世代育成のための両立支援策を拡充しました。	
		ものにする。		
	原則4	あらゆる形態の強制労働を排除する。	・企業行動憲章、行動規範を徹底するとともに、取引先に対して強制労働および	17
	原則5	児童労働を実効的に廃止する。	児童労働への荷担禁止の協力を依頼しました。	
	原則6	雇用と職業に関する差別を撤廃する。	・法定障害者雇用率達成計画を前倒し、両立支援策を拡充しました。	18
			・性もしくは人種に関して差別しない施策を継続的に実施しました。	19
環境	原則フ			22
			・エコファクトリーの活動を推進しました。	28
			・エコオフィスの活動を推進しました。	27
	原則8	環境に関して一層の責任を担うためのイニシア	・環境経営理念についてコミットしました。	21
		チブをとる。	・エコマネジメントの活動を推進しました。	23
			・エコマインドの活動を推進しました。	24
	原則9	環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。	・エコプロダクツの開発を促進しました。	8,25, 26,27
腐敗	原則10	強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止	・ケーススタディーシート発行により、従業員に啓発しました。	15
防止		するために取り組む。	・内部統制システムを構築中です。	16
			・調達方針にて倫理概念に基づく行動を依頼しました。	17

※グローバル・コンパクト(Global Compact):人権、労働、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。

1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

### 引き続きCSR活動のグローバル化に邁進

アンリツは、企業活動を誠実に遂行し社会的責任を果たすためには、組織の隅々まで コンプライアンスが徹底されていることが肝要であるとの視点から、当社の活動レベルを グローバル・コンパクトの原則に照らして検証しています。

昨年10月の企業倫理推進月間時に実施した倫理アンケートの結果を踏まえて、企業倫理 推進委員会を軸に公正取引委員会や情報管理委員会などが連携して、コンプライアンス・ リスクの分析とリスク・コミュニケーションを行い、企業倫理の啓発や教育、組織風土の改善 対策などを推進しています。またこれらの活動は、内部統制システムの基盤整備へと展開さ れています。さらにリスクマネジメント基本規程のもと、中期経営計画の目標達成に向けて、 各階層のリスクマネジメントのPDCAサイクルを回す仕組みづくりにも取り組みました。

私は、昨年「グローバルCSRが今後の課題である」と申し上げました。アジア、アメリカなどで主体的な取り組みが行われていますが、まだまだ十分とは言えません。今後とも引き続きグローバルな視点を持って、CSR活動のグローバル化に邁進する所存です。



アンリツ株式会社 代表取締役 専務執行役員

### 「アンリッCSR報告書2007」第三者コメント

コメントを執筆する前に初稿を拝見し、橋本代表取締役専務を はじめ、報告書作成の責任者の方とダイアログを開催してい ただきました。その結果、短期間にもかかわらず、多くの意見を 積極的に本報告書に反映していただきましたことに敬意を表し ます。また、本報告書は、ステークホルダーの意見が随所に反映 されています。こうした、ステークホルダーの声に謙虚に耳を傾 ける姿勢は、報告書だけではなく事業展開の隅々にも貫かれて いることが伺われます。今後、ステークホルダーエンゲージメント にまで高められることを期待します。

本報告書は副題に「グローバルCSRに向けて」とあるように CSR活動のグローバル化に邁進する姿がハイライトをはじめ、 多くのテーマで記載されています。毎年、最も訴求すべきテーマを 副題として掲げ、テーマに沿った報告内容とすることは「読まれ る報告書」の1方法といえます。ただし、多くの定量情報が国内 もしくはその一部に限られています。「グローバルな活動の目標 管理」を推進することによって、報告対象範囲の拡大を着実に 進めることが「グローバルCSRIの必須条件と考えます。

また、本報告書で印象に残るのは、「CSR活動のあるべき姿」を 作成のプロセスとともに掲げたことです。次年度以降、進捗度の 報告を楽しみにしています。ただ、この達成像は短期的なもので あることから、今回の議論をさらに深耕し、文字通り中長期的な 達成像の策定を期待します。

報告書の内容や品質についてのステークホルダーの要請は 留まっていません。そのため、報告書の発行組織は日常的に社 会的課題へ関心を払い、ステークホルダーの関心や懸念を傾聴 することがますます重要になってきています。冒頭にありますよ うに、こうした姿勢を基本的に有していると考えますが、報告書 にはその結果が十分に反映されていないようです。34頁とい う紙幅の関係に起因するのであれば、ぜひ、増頁あるいはWeb の活用を検討いただきたいと思いますが、まず、冊子版でCSR の基本的項目が完結することを目指すべきと考えます。

最後に喫緊の課題である地球温暖化について。これまでは、 運用改善や管理強化によって削減効果を上げてきていますが、 今後予想される事業拡大を踏まえてどの様に削減していくかが 問われています。この展望とともに、限定されたサイトではなく、 グローバルな温暖化ガス排出量を正確に把握し、開示すること が求められています。

> 特定非営利活動法人 循環型社会研究会 代表

山口 民雄

循環型社会研究会:次世代に継承すべき自然生態 系と調和した循環型社会のあり方を地球的視点 から考察し、地域における市民、事業者、行政の 循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、 実践を行うことを目的とする市民団体。

URL:http://www.nord-ise.com/junkan/

# 編集後記 -

この報告書を編集するにあたり、①トップや従業員も含め「顔が見える」 報告とすること、②中長期性を文脈の中に含めること、③多面的な内容 となるようバランスを図ること、④当社の独自性を発揮し、ステークホル ダーの関心が高い内容とすること、⑤社内へのCSRの浸透を目指すことを 特に留意いたしました。

今回はCSR推進活動の運営を進め、日本の各部門に加え、日本以外の 一部の拠点においてもPDCA管理がスタートしました。その内容は、当報 告書12ページでご覧いただけたことと存じます。CSR活動は全従業員 の自主性が鍵であり、全グループー体となって、表紙のデザインにある メビウスの輪のように継続的に取り組むことが大切です。2008年度 には、10ページに掲げたCSR活動のあるべき姿を、ぜひ達成したいと 思っています。

今後もなおいっそうCSRの向上を目指していきますので、アンケート 用紙にてご意見・ご感想などをいただければ幸いです。

CSR推進室





#### アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5丁目1番1号

TEL: 046-223-1111

http://www.anritsu.co.jp/

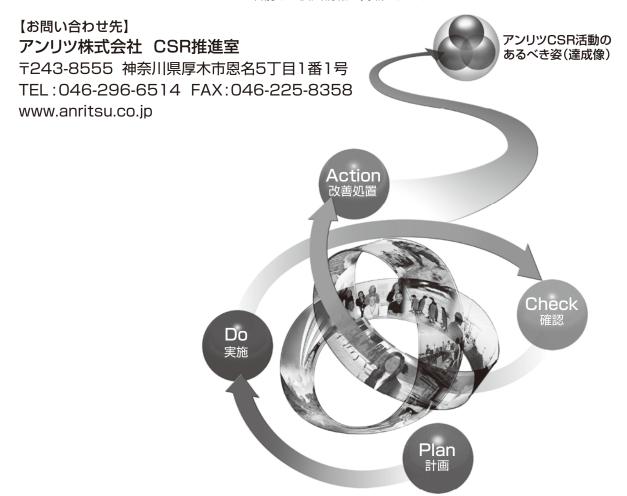


# 皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

『アンリッCSR報告書2007』をお読みいただき、誠にありがとうございました。 私たちは、この報告書の中で、アンリッグループのCSRの取り組みをできるだけ具体的に、 わかりやすくご報告することに努めました。しかし、まだ不十分な点も多々あるかと思います。 皆さまのご助言を参考に、今後いっそうの改善を続けていきたいと考えています。

本紙裏面のアンケート用紙に忌憚のないご意見・ご感想などをご記入の上、 FAXにてご投函いただければ幸いです。なお、お寄せいただいたご意見・ご感想は、 今後の報告書に掲載させていただく場合がございます\*。

\*お名前など個人情報は掲載いたしません。



#### 【個人情報のお取り扱いについて】

- ■お名前、ご住所、ご連絡先などの個人情報の記入欄を設けておりますが、それらの個人情報は今後の報告書発送以外の目的に使用することはありません。また、ご本人の同意なく第三者に提供することも一切ございません。
- ■ご記入いただいたアンケート内容は、皆さまのご回答をまとめた上で、アンケート結果全体として第三者に開示することがありますが、 ご回答者個人が特定される形での開示は一切いたしません。
- ■ご記入いただいたアンケート内容は、合理的な範囲内で厳重に安全管理いたします。
- ■本アンケートの情報処理業務や報告書の発送業務を社外に委託する場合には、委託先とは個人情報保護契約を結ぶなどにより、情報の取り扱い、および安全管理には十分配慮いたします。

## アンリッCSR報告書2007アンケート アンリツ株式会社 CSR推進室行き

お手数ですが、アンケートにご記入の上、右の宛先にFAXいただきますようお願い申し上げます。 FAX:046-225-8358

	アンリッCSR報告書2007をご覧になってどのように	- · <del>-</del> · - · - · - · - ·	浬由もお聞かせください。
	」とてもわかりやすい □ まあわかりやすい □ 普通 □ ややわかりにく E由	い 口 わかりにくい	
	どの内容に興味をお持ちになりましたか? 理由もお問トップメッセージ □ 経営理念・ビジョン・方針、企業行動憲章 □ 目次・執ハイライト(社会編) □ ハイライト(環境編) □ アンリッグループのCSR企業倫理・コンプライアンス □ 内部統制、事業継続計画(BCP) □ 校 障害者雇用・両立支援 □ 人材育成、キャリア支援 □ 労働安全衛生 『エコマネジメント: グローバルな取り組み □ エコマインド: 教育・啓発エコプロダクツ: ブリーン調 □ ステークホルダーの皆さまのご意見・ご感想 □ グローバル・コンパクト	発告書作成にあたって □ 会社および □ 2006年度目標達成度、2007年 朱主・投資家、仕入先・協力会社との □ 地球環境とともに □ 環境負荷 □ エコブロダクツ:環境に配慮した 奎、エコオフィス □ エコファクト!	『事業概要 □ ハイライト (事業編) 『度目標設定 □ お客さまとの対話 別対話 □ 情報セキュリティ管理 マスバランス、環境会計 製品開発 Jー □ 企業市民としての取り組み
_ Q3:	今回の報告書について、よかった点・改善すべき点につ	 いてお聞かせください。	
	たかった点	改善すべき点	
		_,	١°
理	曲		
	この報告書をどのような機会でお知りになりましたか? アンリッからの送付 □ 新聞・雑誌 □ 展示会・セミナー □ アンリッ その他 [	·ホームページ □ アンリツ従業員 ]	
	この報告書をどのような立場でご覧になりましたか? 株主・投資家 □ 金融機関 □ 製品のユーザー □ 仕入先・協力会社 研究・教育関係 □ 報道関係 □ 環境、CSRの専門家 □ 企業の環境、 アンリツおよびグループ各社の従業員・家族 □ その他[		
情	•	ら感じになりましたか? ∃ デザイン・レイアウト □ よい □ ゃゃよい □ 普通 □	
理	自由	理由	
Q8:	アンリツに対するご意見・ご要望をお聞かせください。		
	協力ありがとうございました。次回のCSR報告書の郵送を希 希望の方は、下記にもご記入ください。	望されますか。 □ <sup>希望する</sup>	□ 希望しない
お名前			男·女 年齢( )歳
ご住所	(〒 - )		
ご連絡	先 TEL: FAX: E-m	ail:	
勤務先	・部署・役職名/通学先・学部・学年:		

発行日 2007年7月14日 問い合わせ先 アンリツ (株) CSR推進室 TEL: 046-296-6514 FAX: 046-225-8358